発行所
関西大学校友会
大阪市大淀区長柄中通二丁目
編集発行人　長柄・金吾
電話堀川㊥代表2072番
振替口座大阪 55594番

眼鏡検定
メガネ
大学堂
心斎橋筋
(27) 8086
第一生命ビル専門大店
阪神百貨店5階

二月経24法25商26文27工28

地方試験は一部のみ施行

来年度の学生募集要項きまる

昭和三十四年度関西大学学生募集要項がこのほど決定し、本学では七十余年の栄ある歴史と伝統うけをつぐ優秀な学生の募集活動をはじめることになった。

このほど発表された昭和三十四年度関西大学学生募集要項によると来年度募集される各学部の定員は法学部四〇〇名（二部三〇〇名）経済学部四〇〇名（三〇〇名）文学部三〇〇名（二五〇名）商学部四〇〇名（二五〇名）となっており工学部は機械、電気、化学、金属工学科各八〇名、計三二〇名となっている。

出願資格は例年と同じく高等学校卒業者及び文部省令によって高校と同等以上の学力があると認められたものになっている。

出願受付は各学部とも明年一月十九日から開始されるが、〆切は各学部によって違い、経済学部は二月十八日、法学部同二十三日、商学部同二十四日、文学部同二十五日、工学部同二十六日となっている。本年は一・二部とも受付期間と試験期日は同じであり地方試験は一部のみ行われる。地方試験の出願受付期間は一月十九日から二月十八日までであり、試験期日は二月二十四日となっている。

試験場は一部法・経・文・商各学部は本学千里山学舎があてられ、工学部及び二部各学部は本学天六学舎があてられる。

試験科目は法・経・文・商各学部一・二部とも国語、英語、社会・数学（簿記）となっている。また工学部は理科、英語、数学の三科目が課せられる。

試験時間は各科目とも一時間三十分で各日とも午前十時に試験が開始される。

また来年度試験のうち各地で実施される地方試験は一部法・経・文・商・工各学部で行われるが試験場は高松試験場（香川大学・経済学部）福岡試験場（九州大学・医学部）広島試験場（広島大学・文学部）金沢試験場（金沢大学・教養部）名古屋試験場（名古屋大学・経済学部）の五試験場があてられることが予定されている。

出願手続は上記出願受付期間中に志望学部の事務室で行うが日曜、祭日を除く各日の午前十時から午後四時までで提出と同時に受験票が交付されることになっている。

入学願書は所定のものを大学で用意しているが、願書、健康診断証明書、身上カードをあわせ検定料三千円を添えて提出する。健康診断証明書作成のための検診は国・公立病院、保健所で実施したものほか、関西大学第一、第二診療所でも診断を行う。関大第一診療所の診断時間は午前十時から十一時半まで及び午後一時半から三時まで、第二診療所は午前九時半から十一時半まで、及び午後六時から七時までである。

学費の方をみると一年次入学時に必要な経費は四万一千六百円（二部は二万六千二百円）で内訳は次の通りである。

入学金二万円（二部一万二千円）授業料一万円（九千円）校費千円（千円）体育実習費千円

施設拡充資金八千円（三千円）学友会入会金五百円（三百円）学友会費五百円（六百円）教育後援会費六百円（六百円）

これからは寒さも本格的なきびしさを加えるが母校関西大学では七十余年の輝く歴史と伝統を受けつぎさらに後進に伝えてゆくために勉学に、スポーツに、文化活動に元気一杯活躍する学生を大手をひろげて待っている。

一高・一中も

本学付属第一高等学校、同第一中学校でも来年度の募集要項がきまった。それによると第一高等学校は募集人員は昼間普通科で男子のみ約三百名であり、願書受付は明年一月二十一日から三月三日で行われ入学試験は同三月五日六日の両日にわたって行われる。一方第一中学校の方は男子のみ普通科百三十五名が募集されることになっており、願書受付は明年一月二十三日から三月五日まで行われる。試験は同三月六日七日の両日である。

新校舎の新増築を終った両校では最近特に生徒の質的向上も見られ、発展する関大総合学園の一環としての両校もその歴史と伝統にふさわしい生徒を求めることになった。

出来上ったインクの香も新しい大学要覧の表紙写真＝タテ21㌢ヨコ15㌢総アート紙で28ページ。学舎全景写真が見開きで取入れられたほか各学舎、風物、楽しい学生生活の一端が豊富に掲載され記事は大学の沿革にはじまり各学部の解説、研究機関、諸施設その他学生活動等についてくわしくかかれている。入学希望者はもちろん、校友がみても楽しいパンフレットである。

論壇

一、明朗な学園に

昨昭和三十二年の暮から今年の正月、卒業期にかけて本学経済学部の教授のあいだで校友として全く不愉快な問題をひきおこした。すなわち俗にいう沢村教授問題がそれである。

この問題は全学的な拡大が憂慮されたが真相の究明や、理事会の善処要望、教学府の最高責任者である学長の事態収拾、早期解決要請などがあって、さいわいにも、経済学部内の内紛事件として、他学部は傍観冷静を維持したので、大学理事会が一陣の決断処置にでたので最終的解決をみることができた。

しかし、このような問題は決して自慢にならないことであり、大学教授の学者としての節操と、教育者としての人間感情の練磨について学園の将来に一大警鐘をひびかせてこの問題は終えんをむかえた。

二、学長の健康問題

経済学部の内紛論争熾烈な今年一月中旬に岩崎学長は過労のため学園で倒れ、ついに問題の解決を外目に見らの健康回復のため病床に苦吟する身となった。京大医学部三宅博士の診断は長期安静の必要を宣言した結果、学園重大事案の累積せる折柄この健康状態ではその任にたえずとして、学長職辞任の申出があった。このために三月に行われた卒業式は帝井学長代理によって執行され、病床に涙で認めた学長の訓辞は悲痛な余音で代読されたが、晴れの日に姿なき学長！　それは学長にも学生にも最大の不幸事として終生に残された欠点であった。ついで四月に就任された岡野新学長は二度目の学長就任である。われわれは岡野学長の就任早々に座談会を開いて、岩崎学長が三度学長に就任して二度病気で引退をされた事実、第一次岡野学長も大学院設置手続中に旅先で倒れてついに引退された事実を反省して、学長職のいかに難渋であるかを推察のうえ、身辺雑事の整理と権限の明確執行、労作負担の軽減などを提案されて終始健康で学長職を完遂されたいことを要望し、岡野学長自身も今後は前轍を繰り返さない十分の自信あり、さらに諸般の整理として心配と迷惑をかけないことを誓われた。しかるに数カ月後の八月には早くも病床の人となり、二学期中は大学に顔見せのできない始末である。病気だからいたし方はないとしてもだれが何が学長をこうまで病気に親しますのか。病源の追求と職務権限執行の隘路打開の必要性をいたずらに憶測し、健康でビシビシと任事をする学長の出現を、大学発展のためにただひたすらに希翼する。

一年の回顧

三、法文学部研究室建設

昭和三十三年度予算で最大の論議問題となったのは概算七千万円の法文学研究室の建設と、教授の充足および海外研究留学制度ならびに政治経済研究所の建設問題であった。関大には第一法文研究室、西研究室、経済学部研究室、教授の研究個室など既設のも相当整備されている。これらの施設について従来の利用度と使用成果が討議の中心となったが、大学の権威と質的向上の本命を強く顕揚する必要な良識に意見の一致をみて関西大学総合研究室、法文学部研究室、政治経済研究所の三者を含めた一大研究室の建設となったわけで、十二月下旬には竣工の見込みであるから大学の威容は一段と高まるわけである。

四、工学部第一年次発足

多年懸案の総合大学への拡大策として工学部の新設は昨年十二月二十日に内認可、本年初頭に本認可があって、大学から実社会へ、すぐに役立つエンジニア教育を目標として、機械工学、電気工学、化学工学、金属工学の四学科で、阪大、京大その他から斯界に権威を誇る教授陣を網羅して田中晋輔理学博士を部長とし、三人の理博と二十数名の工博をそろえた関大工学部は夢と期待に包まれた雄渾な発足である。商工産業都市の大阪に七十数年の歴史とともに大きく貢献してきた関大が、環境と時代の要請に応えて設置した工学部こそは新時代のホープとして発展するであろう。

五、高速道路の貫通阻止

本年度のわが国の重大出来事は、教員の勤務評定問題と警職法の改正問題、そして民主国家にふさわしい人間皇太子の面目を躍如たらしめ、かつ憲法二十四条の婚姻憲章の範を垂示せんとして、庶民正田美智子さんに求婚して、ついに婚約を成立せしめたことである。関大のことしはすでに述べたように、いろいろの出来ごとがあったが、年の瀬迫り、日の短かい、あわただしい師走に、一そうの暗映を投じているものは道路公団が発表の高速度道路の学園真一つの両断貫通計画である住宅の移転耕地の買取など最少の犠牲を目図としてわざわざS字型に曲げて関大両断の暴挙に出たのである。われわれがほこる自然の秀麗、桃源、千里丘、環境学園関大はいまや車騒警笛と塵芥汚穢の不衛生かぎりない学園に転落する一歩手前である。学問の恒久性と経済負担の一時性はたがいに比較すべきでないのにかかわらず、経済負担の少ない、反対抗争薄とみた公団の暴挙を駆逐して、大学の恒久繁栄の基を擁護するために、全学一丸となっての正義の阻止運動を強力推進すべき機を最後として昭和三十三年度の論壇を擱筆する。

この暮れも　またくりかえし　同じこと。

石浜博士の古稀祝い記念講演会

関西大学が内外に誇る東洋学の権威、文学部教授石浜純太郎博士の古稀を祝うため有志が寄って石浜先生古稀記念会を結成、記念行事として関西大学史学会の主催で十一月十六日千里山第三学舎講堂において祝賀記念講演会ならびに祝賀会が盛大に開かれた。

講演会は関西大学史学会の主催で大阪市教育委員会の後援をえて開かれたもので午後一時、本学教授横田健一氏の開会挨拶によって始められた。ひきつづき横田教授が司会し記念講演会に入った。

まず、本学教授文学博士魚澄惣五郎氏が古稀の祝賀にちなんで「賀寿の風習について」と題して講演された。ついで「ツ橋大学教授上原専禄氏から「世界史像における東洋と西洋」と題する専門的な講演があり、最後に元時代の料理の本である「飲膳正要」について日本大学教授石田幹之助氏が講演した。この日は約三百名の祝賀に来会した人をはじめ、講演会をきくため出席した人で会場は盛況を示した。

このあと祝賀記念式典にうつりまず三上諦聴氏が挨拶をのべたあと、大野裕子さんから花束贈呈があり記念論文集の贈呈があって矢口学長代行、久井専務理事、増山竜谷大学総長、京大教授吉川幸次郎氏ら参列した各氏が祝辞をおくった。ここで本学教授高橋盛孝氏が閉会のことばをのべ講演会ならびに祝賀記念式典を閉じた。

会はこのあとただちに第二学舎に移りテーブルを囲んでの記念祝宴に入った。ここでも全国から来学した多数関係者の古稀を祝すテーブル・スピーチがあとを絶たず文字どおり盛会に予定を終了した。

この日は前記のとおり各地から石篤博士の長寿を祝って阿部評議員会議長、泉井京大教授、上野精一氏、沢潟博士、神田京都博物館長、窪東大教授、木村、守屋両阪大教授、内藤大阪市大教授、塚本、森両京大人文科学研究所教授、小島吉雄氏ら関係者が多数出席した。

豪華な記念論文集

石浜博士の古稀を記念して記念会から出版された記念論文集はB5判八五〇余ページの豪華版で内容もそれにふさわしく言語学、歴史学、シナ、西蔵印度学などにわたる各界の権威者が執筆、その内容は東洋学論文集と称することができるほど多彩なものになっている。これは記念会で希望者にも頒布（頒価二千五百円）しているが、この論集はこの種のものの中では日本ではじめての豪華なものである。

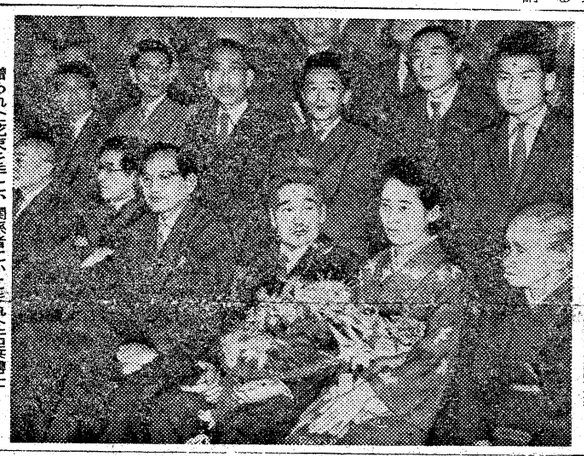
石浜博士略歴

明治21年8月27日大阪市北区堂島で生まる。明治30年藤沢南岳の泊園書院に学び、34年府立市岡中学に入学同期に小出楢重らがある。41年東大文科支那文学科に入学、44年卒業後一時歩兵第八聯隊に入隊、除隊後大正4年西村天囚の誘いより大阪の文会「景社」に入る。5年内藤湖南氏らを知り、10年この日祝賀講演をした石田幹之助氏と知合う。大正13年7月には京大教授内藤湖南氏に随伴、内藤博士の古稀を祝う。

会館問題を検討

12月10日　常議員会開く

校友会ではさる十二月十日午後五時半から常議員会を開催した。議題は清水町の用地に大学と協力して建設する予定の関大会館問題、高速度道路母校貫通問題、ならびに推せん校承認に関する件、その他であった。



贈られた花束を手に、関係者にかこまれた石浜博士

来年は魚澄博士が古稀

石浜純太郎博士の古稀を祝う記念講演会ならびに祝賀会が無事盛大に行われた第二次司法試験筆記試験に十一名が合格した。合格者総数は三百六十二名で、関大の成績は全国第七位、関西第一位である。合格者氏名次の通り（カッコ内は卒業年）

黒田充治（昭16）東野俊夫（昭23）重村和男（昭30）宇津呂雄章（昭30）近藤寿夫（昭30）原田南（昭33）得津正燕（昭32）上原洋允（昭32）大西喜代（昭25）八木広一（昭30）鷹取重信（昭26）

本年度司法試に11名合格

全国七位、関西二位の成績

関西大学では司法試験により優秀な成績を収めるため研究講座開設等の努力を続けているが本年七月十六日から六日間にわたって行われた第二次司法試験筆記試験に十一名が合格した。合格者総数は三百六十二名で、関大の成績は全国第七位、関西第一位である。合格者氏名次の通り（カッコ内は卒業年）

黒田充治（昭16）東野俊夫（昭23）重村和男（昭30）宇津呂雄章（昭30）近藤寿夫（昭30）原田南（昭33）得津正燕（昭32）上原洋允（昭32）大西喜代（昭25）八木広一（昭30）鷹取重信（昭26）

なお他大学の成績は次の通り

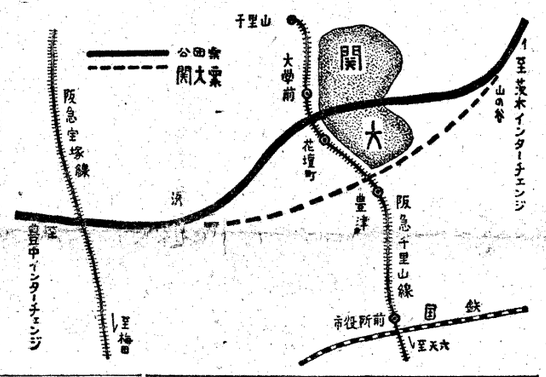
中央大110、東大63、京大28、早大23、明大19、日大12、関大11、法大9、金沢大9、東北大8、九大7、一橋大6、阪大6、慶応大6

どうなる？高速道路問題

各支部で反対決議の動きも

公団〝測量再開〟を申し入れ（学生側は拒否）

日本道路公団が建設する名神高速道路の関大千里山学舎貫通計画に対処するため本学では種々対策を検討しているが、各地の支部でも反対決議、反対運動がおこりつつある。



ついで、本来、高速を生命とする道路において公団予定線が、不適当と思われるS字型曲線を画いているのと本学希望線との種々の差異について富樫課長から説明があった【略図参照】それによると公団予定線の方が住宅撤去数が少くて住宅の採当り地価も低くなっている。しかしこの予定線をみるとわざわざ大学敷地を無理をして選んだ感があり、距離の点も関大希望線の方が百余㍍も短縮されることが報告されている。また理事会での問題を担当している神宅理事と久井専務理事は道路公団岸総裁と会談し本学の意見をのべ再検討を申し入れたが「再検討は約束しかねるが学苑一分間題や美化阻害については極力善処するから公団案を学校でのめ」との解答であったとがのべられ、S字型曲線を画くについても「余りに直線コースだと事故が多いから、居眠り運転による事故を起さぬ意味からもカーブが必要だ」と語ったといわれている。米国の例をあげるとカーブは言ず先から画き、乗っているものには何処で曲ったか判らないようになっておりこの岸総裁の話に対して府警交通課でも「曲げないと事故が起るということは絶対にない。できるだけ直線でしかも高低のないのが理想だ」と一笑に付している。

この問題に対処するため、評議員会に高速度道路対策委員会が結成されたことは既報の通りだが、さる十一月二十九日にその委員会が開かれた。

会議は席上まずこの委員会の正副委員長に阿部、大島両氏を選任し団予定線の方が住宅撤去数が少く異について富樫課長から説明があった【略図参照】それによると公団予定線の方が住宅撤去数が少く

お座敷　北京料理
天山閣
生玉境内TEL㊥5060・4828・2285

結局委員会は大学敷地を通ることに絶対反対するとの既定方針とおり対策を進めることになり、建設省・道路公団に対する働きかけも時期、方法等慎重に考えて推進してゆくことになった。

また過日開催された校友会豊中支部東成支部総会では「高速度道路母校貫通絶対反対」の決議文を関係先におくることも支部としての反対運動も考慮することになった。さらに年末、年始にかけて予想される各地域支部総会でも通過反対の決議と運動をする動きがみえてきている。

また大阪大学産業科学研究所が調査した結果を「騒音対策調査報告書」として提出された貴重な科学的報告内容によっても公団の計画線を自動車が七五㍍以上の速度で走るときは第二学舎においては三〇ホン以上の騒音を減殺せねば学業は不可能であるという結論がでているので、科学的、技術的に信頼性のない岸総裁の発言との科学的調査報告資料によっても学問の場所を通過することは不適当であることが明白となった。

一方学生側はさる十一月五日道路公団と会見、公団側が「測量の再開を認めてほしい」と申いれたのに対し、強硬に反対、その申入れを断った。学生側道路対策委は「とにかく道路通過を認めてもらいたい。環境の美化、各種障害などについては予算のワクもあり希望にそえ必点もあるが、それから具体的に話合ってゆきたい」との態度をアイマイかつ不誠実だとし通過絶対反対の態度はかえていない。また年末、冬季休暇中に一方的に測量することも予想し、学生による外苑を中心としたパトロールをさらにに強化することになっているようだ。

一言の雨下

壁かけのカレンダーが一枚になり、卓上カレンダーもうすくなった今年もまた師走がやってきた▼師走とは、お盆だけ忙がしいように思われている坊さんまでが飛び歩き、ひまな商売で融通のきかない標本のような先生までが、走るというのが起りだという。筆者はその後段に少々異議なきを得ないが、そんなことに神経をつかっていたら、カレンダーと共に残り少い頭髪もうすくなることと案じられるので、師走の意義はとがめないでおこう▼はぎとって捨てられるカレンダーと反対に、一枚ずつ増えていく本紙「関大」はうれしいことの一つである。昭和三十年の五月に発行した、編集不なれな第一号紙から、本月の第四十二号紙まで積みかさねたはは、その一枚一枚の内容の充実と共に力強い限りである▼ふえるといえば、ブラジル移住五十年記念とか、慶応義塾創立百年記念等々という郵便切手もそれである。当初子供のために求めだしたのが、いつの間にか自分の蒐集道楽にも及んでいるのである▼郵便切手を集めるなど、子供じみたことと思う人もあろうが英国の故ジョオジ陛下が大の切手道楽であったことは有名である。凡そ地球の上で発行せられた切手という切手は、残りなく陛下の手許に集まっていたという▼これは蒐集とはいえないかも知らぬが本月初め出た皇太子殿下と美智子嬢の婚約記念の週刊誌等数種集めたが、一般によく買われたことと思われる。学友の語るチャブとミッチイ（御両人の愛称）の人となりが、いかにも清く明るく正しいので、広く国民の胸をうって、特に同年配の青年の子女には良い教訓になったようである。それは百万の道徳教育の言葉よりも、国民の道徳生活に好ましい影響を与えたといえるであろう▼とはいえ、若い世代の結婚難、就職難、そしてまた来る入学難などに苦しむ姿は、なみだなくては見ることができない▼母校関西大学が、五学部をようして教育の大道をかっ歩する最近の姿はまことに頼もしいが、ここにも一つ蒐集の希望を述べておく。記念館を建設して万般の史料等を蒐集することと、更らに各学部に新進気鋭の教授を蒐集することがそれである。去る日、石浜先生の古稀記念会に出席して、遠近より参集せられた学者、門弟、学生のなごやかな盛会に感激して、敢えて記し歳末の雪の雫とする。

入賞
1959年新スタイル
技術コンクール
通商産業大臣賞受賞
片野洋服店
本店　大阪市東区北区三丁目電停前
電話㊥0565—7
大阪駅前店　第一生命ビル専門大店
電話㊥6717
☆大阪有名大店加盟店☆
☆日本信販加盟☆
☆大阪信販加盟☆
☆大阪府職員互助会加盟☆
御一報次第見本取揃参上致します

矢口教授（経済学部長）が学長事務を代行

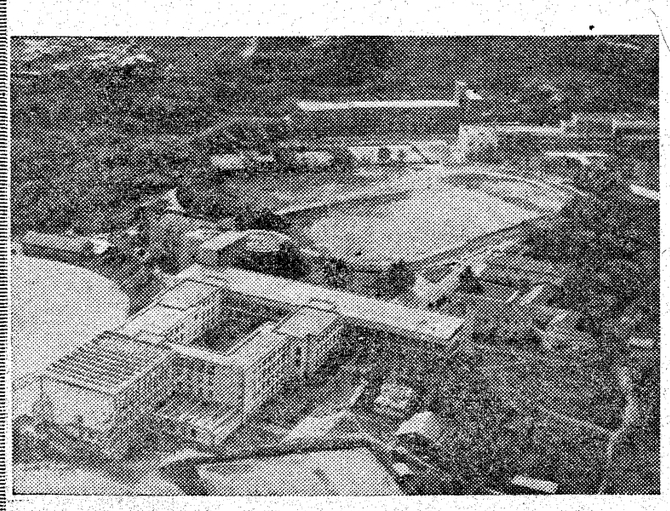
同窓会に、御商談に、大阪から一番近い
温泉郷、同窓の御方には特別割引
国際観光旅館
錦溪温泉油屋
営業主（昭19卒）山田　湾
南海高野線三日市町下車スグ
（ナンバより45分）
電話河内長野　14・338・356
大阪案内所　(77)　8590

大阪陸運局認証工場
外国単車・ドリーム号・ベンリー号
メグロ号・コレダ号・キャブトン号
単車卸小売専門店
株式会社　巌（いわお）
代表取締役　千巌　克郎
本社　大阪市南区上本町四丁目625
TEL南㊥7224—5，7129
福島営業所　大阪市福島区海老江下2—40
TEL㊥6668
西営業所　大阪市西成区東四条3—9
TEL㊥5706

関西大學
学部
法学部　一部（昼）　二部（夜）
法律学科・政治学科
経済学部　経済学科
文学部　英文・国文・哲学・佛文・独文
史学・新聞・東洋文学の各学科
商学部　商学科
工学部　機械・電気・化学・金属の各工学科
（一部のみ）
▽試験

経済学部	（一・二部）	2月24日
法学部	（一・二部）	〃25日
商学部	（一・二部）	〃26日
文学部	（一・二部）	〃27日
工学部	（一部）	〃28日

▽願書受付
1月19日より試験日2日前まで
◎地方試験（全学部一部のみ）
高松・福岡・広島・金沢・名古屋
試験　2月24日
願書受付　1月19日より2月18日まで
三年次編入（一・二部　法・経・文・商各学部）
試験　3月21日
願書受付　3月2日より3月18日まで
大学院
博士過程（法学・文学・経済学各研究科）
修士過程（法学・文学・経済学各研究科）
試験　3月26日27日
願書受付　3月2日より3月23日まで
第一高等学校
試験　3月5日6日
願書受付　2月21日より3月3日まで
第一中学校
試験　3月6日7日
願書受付　2月23日より3月5日まで
入試要項は左記へ申越されたし（学部・大学院は入試係・高中は各事務室宛）
学部・大学院（大阪市大淀区長柄中通二丁目十二）
高校・中学校（大阪府吹田市千里山）
要五〇円　送料十六円
要五〇円　送料八円
幼稚園
募集人員
一年保育　六〇名
二年保育　五〇名
三年保育　一〇名
願書受付　12月10日より



あなたの支部から

関大大阪倶楽部で存続

大阪支部　幹事会で決定

大阪支部では各地支部の拡充発展にともないやむを得ず改組改称しなければならぬ事情を諒察、今年の秋季総会でも議題にのぼり、あらためて十一月十九日役員会を開いてこの問題を検討した。

この支部は他の支部と異り古い歴史をもち各界の有力者で組織されているため、廃止せず、何等かの形で存続させることに総会では決定していたため、役員会では支部愛着説もでたが、発展的解消にふみ切り別個の組織体として出発することになった。

改称については色々案があったがすでに各地の支部で名称にとりあげているところもあるため大阪支部の名残りを惜しみ「関大大阪倶楽部」と決定した。倶に楽しむとの意味から特にカナ書を避けたわけ。なお来年の春季総会を開催する前に早目に準備の幹事会を開くことを申しあわせた。

改組改称にともなって会則を改正したが改正点次の通り。

第一条本会は関西大学校友の有志者を以て組織する▽第三条本会は関大大阪倶楽部と称する▽本会に左の役員を置く。理事長一名、副理事長三名以内、理事若干名、監事二名以内▽第六条理事長は本会一切の事務を総括する。副理事長は理事長を補け理事長差支えあるときは之を代理する。理事は諸般の事務を掌る▽第八条本会の会計年度は毎年四月一日から翌年三月三十一日とする▽第九条会員は会費として一カ年一二〇〇円とする。但し年二回に分納することができる。

教育後援会と懇談会

第二回目　後援会の招待で

校友会事業部と教育後援会との懇談会はさる九月十六日第一回（既報）を開催、今後の協力へ有意義な一歩を踏みだしたが、こんど第二回目の懇談会が後援会側の招待で十一月二十八日「いろは」で開催された。

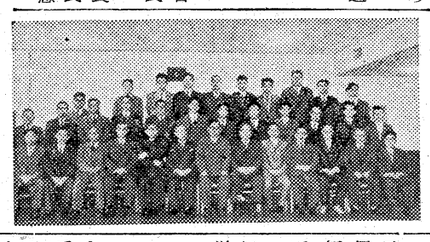
後援会側は右井会長、常任委員各氏、山本幹事長、森本幹事ら各氏が出席、校友会からは大月会長、櫻本、長柄副会長、村上事業部長河内、中谷部員らが出席、山本氏の司会で両会会長の挨拶があり懇会談で両者の親睦を深めた。

神戸関大倶楽部総会開く

出版・栄転祝賀会も

神戸関大倶楽部では会員三千名を収録した名簿が完成したのを機会に、さる十一月日午後二時から県立農業会館で四十一名の出席を得て本年度総会を開催した。

山崎理事長の挨拶のあと大月会長が会館問題、総会、会則改正問題等の経過を報告し、久井専務からは大学の発展状況説明があった。議事、会計報告のあと役員を改選した。



商学部長山崎紀男教授がマッキンゼイ議長に招待されたときの模様やアメリカ大学を視察した状況を約一時間にわたって講演した。

一同は午後五時、学歌を斉唱し閉会した。当日は理事に三十五氏を選任したが役員会を開き次の通り決った。【写真＝神戸関大倶楽部】

理事長　山崎敬義▽常任理事　向井裕晃、水本信夫、細井三郎▽監事　水本千代松、橋本太一、瀬郷清市、野田俊春、大国雅己

出版記念と栄転祝賀会　この総会のあと午後六時から会員水本信夫氏が「土地建物の諸問題」を出版されたのと本井吉雄氏が神戸地検総務部長検事に栄転されたのをよろこび、北京楼で祝賀会を開いた。

市内中学教員　関大会

天六学舎で結成大会開く

大阪市内の中学校に勤務する校友を組織化する問題が以前から検討され、準備が進められていたがその機が熟し、さる十一月二十二日午後三時から天六学舎で結成大会を開催した。

まず最初に会則を審議決定したのち会の名称については改めて検討の末決定することに決めた。役員の選出に入り、後藤正身氏が会長に選ばれた。

来賓として出席の大月会長は「母校関大を発展さすためにもあなたがたに立派な生徒を送りだしてもらうよう努力してほしい」とあいさつと激励をのべた。また櫻本副会長も校友会現況を報告、門上組織部長の祝辞があり久井専務理事が母校の現状をのべ発会を祝って懇親会をひらいた。

出席した会員一同なごやかに会食し盛会裏に閉会した。【K】

大人とは半禿と半白か

千里山十二会総会便り

自由経済から一途に統制経済に急テンポに突入しいる時代、僕等の大学卒業の年には北支事変が始ったのだ。それから二十一年何カ月が経過した。今秋の例会は去る十一月二十七日難波新地の喜楽別館で開かれた。ヤア暫らく！と懐しそうに手を握る二人は半禿と半白だ。もう大人の会合だなあ！との感が一入強くなって来た。取り交す名刺の肩書き、話の内容も大人である。仕事の話しも大人なら、遊びの話しも大人である。隣りに座った酌婦がこんな歌を唱ってくれた。

課長に、部長に、社長さん
長がそんなに偉いなら
巻もあります、長の字が
胃腸に盲腸に、御開帳

長があってもなかっても、会えば紅干里となり、嵐つんざく鳳の、そして、自然の秀麗人の親和に！大いに語り、大いに歌い、大いに飲んだ。そして次は来春千里山学園で催すことに決めて散会した。

千里山十二会への連絡は北区鳴尾町一〇、長柄金吾方へ

山崎敬義氏表彰さる　神戸関大倶楽部理事長山崎敬義氏は十一月一日日本公証認人制度制定七十年記念式で法務大臣から勤続二十五年の表彰を受けられた。

東定川支部役員決定

大阪東淀川支部（支部長矢野文雄氏）では過般来役員の選考をしていたが、ようやく次の通り決定した。なお同支部では十一月十七日初の役員会を開催した。

顧問　安東彦太郎、井上永次、生島信次郎、河南昌、金光三郎、黒井鑾、小林才市、重浦春水、鈴木多吉、田中修、土橋四三、長崎隆雄、西田捲三、野々村可人、林武彦、藤村修三、藤田正明、渡辺正人。

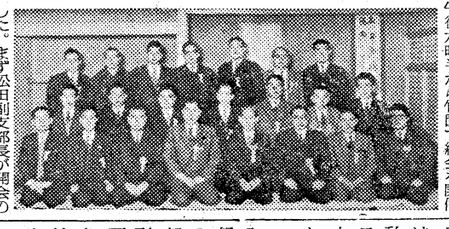
相談役　赤堀一男、相沢正二、井田太郎、神吉等、川口定太郎、岸本房子、木沢才蔵、菊池圭一、小松原実、藝井泰忠、滝本謙吉、西口克己、橋本俊、福村敏雄、松井清、正木芳貨、宮岡四一、名剣要一、山下邦宣、吉田年孝

副支部長　大西久男、新熊菊次、

隣接支部からも出席し

芦屋支部総会開催

芦屋支部ではさる十一月二十九日午後六時半から竹園で総会を開催した。まず松田副支部長が開会の辞をのべ田辺支部長の創設以来十六年の発展を喜ぶ挨拶があった。次に来賓として出席の大月校友会長、長柄副会長から校友会現情報告や祝辞がのべられた。議事に入り、竹谷副支部長の事業、会計報告を承認、会則改正も満場一致の承認を得た。役員改選では現支部長田辺由治郎氏が再選された。副支部長には竹谷裕至、松田秀彦両氏が決定され田蔵之助、下条小野右衛門、越智比古市、図師親徳、前田軍治、三木淳太郎、茶谷薫重、小村重次諸氏を顧問に決定した。武田蔵之助氏から帰朝談があり記念撮影ののち懇親会を開き、最後に学歌、学生歌を合唱、万才三唱して午後九時半散会した【写真＝芦屋支部【芦屋支部・発】】



祥久会が懇親総会

〝朋あり遠方より来たる〟

祥久会ではさる十一月二十一日久しぶりに旧交をあたためるため総会を開催した。場所は会員小島電太郎氏の経営する旅館「大市」にて六時からであったが早くから会員が集まり懇談をつづけ、六時すぎほとんどの顔が揃ったのを機に開会した。最初に河内氏が開会挨拶をのべ、矢野文雄氏、竹沢氏、江里口氏、野間秀泉氏らも挨拶、久しぶりに出席した会員の自己紹介もありなごやかであった。この日は久井専務理事も出席し祝辞を述べた。

母校は守らねばならない

私の家が收用されても

私は豊津に住む一市民だがこんど高速道路が千里山関西大学を通ることが計画され関係者間で問題をおこしているようだ。最初のうわさでは豊津付近を通る予定であったが、そうすれば私宅などは道路のド真ン中になると思っていた。ところがこの予定線を変更してわざわざ大学を通るという。私はこの当局の非常識さにあきれた。住家の多いところは当然避けるべきである。しかしわざわざ大学を通るという当局者の「非常識さ」にはおそれ入った。そもそも関大は私には無関係ではある。しかし、これは吹田市がAビールと共に日本に誇る施設である。七十何年と言う伝統をもつ大学である。私たちは単に電車へドヤドヤ入ってくる学生だけを見ているのではない。教育施設は我々市民も大切にしてやらねばならない。私は拙宅がたとえ接収されても充分な補償さえしてくれればおぎないがつく。歴史と伝統をもつ大学を私は自分の家を収用されても守ってやりたいと思う【吹田市豊津・一市民】

音波

校友のこえ

今月の〝音波〟は先月号一面トップに取りあげた切迫した高速道路問題について寄せられた意見を特集した。

教育意義の再認識を

弾丸道路が大学を貫通しようとしている。これに対して当局に「もう一度教育の意義について勉強しなさい」と申上げたい。日本の国には官学偏重の傾向が以前からあるが、そんな思想によって関大を通ろうとするなら大へんなことである。我国から私学教育の実績を抜いたらどうなる。宮学教育の及ばぬ所を補って独特の使命を果して来た歴史を認識し、それからも一度「道路」の方を向いてもらいたい。そうしたとき「関大以外に通る所がない」とはいえぬと思う【K大学・T生】

非常識な矛盾を感じる

高速道路建設にあたり、公団側は住宅、畑地の多いところを避けたためやむを得ず関大を通過しなければならないと理由をのべているがこれは非常におかしなことだと思う。新聞をさわがした数々の事件を想起すると何とも理解できない。同じ政府でありながら建設省と調達庁でこれだけ方針が違うもの か…。また素人眼にも瞭然とした無理な曲線を画いておきながら〝これが最良なり〟という道路公団側技術者の水準をうたがう【大阪市・I生】

〝貫通反対〟を支持

総合学園建設に邁進中の母校を高速道路が貫通する公団計画が発表されて二年有余、来春三月着工予定と発表される程、公団側の計画は進んでいる。これによって学園森の宮球場へかけつけた。もちろん村山、山田、上田…という大選手の活躍を期待したからである。ところが、いざ試合がはじまるとそうした主要選手は一人も出て二線級の低学年選手ばかりで少なからずガッカリした。相手校（立教）が力を落して対戦してきたからというわけだろうか。たとえ相手校の出方がそうであっても関西側はあくまで主催者として誠意のある態度でのぞんでほしい。のまったファンを失望させ、ひいては関西六大学野球の発展を阻害しているように思える。関西六大学リーグが東京〝神宮の森〟以上の雰囲気の盛りあがらないことは関係者とともに学生校友も反省せねばならない問題だろう。【大阪市住吉区布施綾雄＝昭32卒・ほか】

おこたえ　主催者の説明によりますと東西六大学野球は慣例として各校の新メンバーを披ろうする最初の大会だそうで四年次の主軸旧メンバーは秋のリーグ戦が終ると実質的に引退します。

東西六大学野球があるというので期待はずれの東西野球

一高同窓会本年度総会

昨年とくらべ見違える盛大さ

関大一高同窓会の本年度総会がさる十一月十五日午後四時半から桜橋の「産経パーラー」で開かれ、会場は満員となり昨年度総会に較べ見違える盛況を呈した。

当日は産経会館で母校の文化祭が開かれており、その観覧をかねて出席したものが多く、大多数の恩師の出席も得たので豪華な会場は文字通りの満員となった。

総会は塚田会長のあいさつ、三島名誉会長のあいさつがあって議事に入り、一般経過報告、会計報告があって承認した。また会則改正も承認されたが改正された点は会計年度の変更と会費収入金の三割積立規定である。

その後懇親会にうつり三島校長はじめ各先生の自己紹介があり和気あいあいのうち久し振りに逢う旧友はお互に歓談、尽きぬ話を惜しみつつ午後七時散会した。【上山・発】

昭三会、総会開き歓談

就職斡旋にも盡力約す

昭三会ではさる十一月十五日、大阪堂ビル内清交社で総会を開催した。この日は日本弁護士会を代表して渡欧、国際法律専門家会議に出席された思師武田蔵之助氏を招き、会員一同西欧諸国の土産話を聞き、多大の感銘を得た。

またこの前日、会場も同じ清交社で就職対策の一環として職域会・同期会代表者会議が開かれ就職難打開策を検討したが、その会議に出席した会員小寺小市郎氏からその時の模様が詳細に報告され、あわせて会員一同に母校関大卒業生の就職斡旋の尽力を依頼した。会員はそろってこれを了承し就職開拓に大いに協力することを約束した。

夕食を共に久し振りの歓談にふけった会員三十数名は午後八時、お互の隆盛を祈りながら散会した。

伊丹支部幹事会

伊丹支部ではさる十一月二十三日午前十一時から伊丹のシスターグリルで幹事会を開催した。この日は深川支部長はじめ田口正春、平井正彦両副支部長、幹事の磯野充賀、安井章吾、甲川緩、弦義人、倉橋貞一、池田宏、松島信夫、田原孝平の各氏が出席した。その結果、総会を来年一月十五日午前十一時から伊丹観光ホテルで開催することにきめた。なお会費は七百円である。いずれ支部から会員に通知状が発送されるができるだけ多くの会員が出席されるようのぞんでいる【宮井・発】

道路学内貫通反対を決議

豊中支部が総会で気炎あげる

豊中支部では十一月二十九日午後六時から市内「魚浅」で本年度秋の総会を開催した。

この日は校友会から岡野副会長、門上組織部長が出席、大学からも矢口学長代行が出席した。会は安富支部長の挨拶ではじまり矢口教授の大学現状説明、岡野副会長の挨拶、門上部長の高速道路貫通問題説明があった。議題、役員改選については満場一致で留任となり榎原副支部長の各神宮速道路反対貫通反対決議案を全員拍手をもって可決、強力な対策を支部として推進することになった。

視聴覚器に続き懇親の宴を開き、すきやき鍋をかこんで歓談、午後九時すぎ閉会した【K】

枚方支部幹事会開く

枚方支部では十一月二十一日午後六時から幹事会を開催した。この日は吉田支部長ほか名越、下野支部長村上精二

五十経会が秋季例会　五十経会（いそけい会＝昭13専経）では秋季例会を十一月五日午後六時から大阪北区・泰華楼で行った。

この日集った会員は北本誠一、稲野治兵衛、平沢農一、日俣正三、田岡隆、亀有正男、佐藤寿夫、唐川次夫の七氏で各自消息話をひろう、親睦を深めた。日本教員団体連副委員長の肩書をもつ亀有氏はこの日の新顔で過日まつ子さんと結ばれたという田岡氏とともに人気を集めていた。

昔を再現？出席簿も飛びだす

関甲の十期生が懇親会

関西甲種商業の十期生が寄って懇親会が開かれ、なつかしい思師を合せて二十六氏がさる十一月十七日午後六時、太融寺「清竹」に集った。

この日は恩師三島律夫、中村秀光、古川武、笠西大次郎、道端常次郎の各氏が出席、それぞれ祝辞をのべた。一同は恩師を囲んで記念撮影ののち懇親の裏にあり久しぶりの会合で話題は次から次へと続いた。まことこの日は東京からわざわざ林弘高氏も田中久雄氏と共にかけつけ学友との再会をよろこんだ。現在二中・一高校長の三島律夫氏は当時まだ新進気鋭の先生であり、思い出草にと当時の成績表や出席簿を持参「出席をとります」と読みあげられたので一同昔を振りかえり大笑い。なごやかな懇親会は午後九時をすぎ盛会裡に散会した。【写真＝関甲十期会【K】】

当日出席者

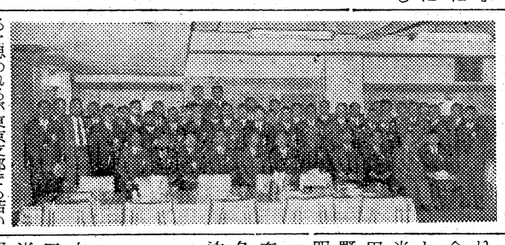
田中久雄、天野喜一、阿部博、浅野清、今井清、上田正直、植田善四郎、川西正雄、片山政一、勝清一、高谷幸吉、辻井恒三、中辻淳奈須野一郎、西田一道、林弘高、久井忠雄、松田収三郎、原順二郎、辻野昌夫、嘉藤虎次

恩師の思い出話聞き入る

昭六会が定例秋季総会

昭和六年卒業の有志で結成されている昭六会ではさる十一月十五日午後六時から「北京」で本年度秋季総会を開催した。

この日は岩崎、矢口教授ら恩師も出席、世話人上野俊彦氏の挨拶で開会した。また席上、学友石田孝之氏が逝去された折の供花のお礼と、事務局報告があり、会費納入方法を調査する【坂本竜夫・発】



る思われるが東京支部でも若い世代の出席が少く今後活発に運営するために若い層の出席を促がす予定【写真とも東京支部発】

正式な組織へ第一歩

日産自動車関大会開く

大阪日産自動車株式会社は本社を福島区にもつ自動車販売会社で営業所、工場が市内に四カ所ある。同社には三十六名の関大卒業生が従業しているが事業所が分散しているため同窓の情を温むには年一回の懇親会が唯一の機会だという。この日は約三十名の会員が出席、校友会からも櫻本副会長、宮崎組織部長らが参加してさっそく宴会に入った。まず幹事役の見島氏が「なりゆきにまかせて回を重ねてきた会だが、われわれの親睦と団結のために大いに役立っているものと信じる。この会の発展も時とともに伸びてゆくだろう」とあいさつ。このあと近藤北大阪工場営業課長ほか各氏が自己紹介を行い来賓の櫻本副会長も校友会の現状を報告「こんどは本部といろいろ

昭三会、総会開き歓談

就職斡旋にも盡力約す

昭三会ではさる十一月十五日、大阪堂ビル内清交社で総会を開催した。この日は日本弁護士会を代表して渡欧、国際法律専門家会議に出席された思師武田蔵之助氏を招き、会員一同西欧諸国の土産話を聞き、多大の感銘を得た。

またこの前日、会場も同じ清交社で就職対策の一環として職域会・同期会代表者会議が開かれ就職難打開策を検討したが、その会議に出席した会員小寺小市郎氏からその時の模様が詳細に報告され、あわせて会員一同に母校関大卒業生の就職斡旋の尽力を依頼した。会員はそろってこれを了承し就職開拓に大いに協力することを約束した。

夕食を共に久し振りの歓談にふけった会員三十数名は午後八時、お互の隆盛を祈りながら散会した。

伊丹支部幹事会

伊丹支部ではさる十一月二十三日午前十一時から伊丹のシスターグリルで幹事会を開催した。この日は深川支部長はじめ田口正春、平井正彦両副支部長、幹事の磯野充賀、安井章吾、甲川緩、弦義人、倉橋貞一、池田宏、松島信夫、田原孝平の各氏が出席した。その結果、総会を来年一月十五日午前十一時から伊丹観光ホテルで開催することにきめた。なお会費は七百円である。いずれ支部から会員に通知状が発送されるができるだけ多くの会員が出席されるようのぞんでいる【宮井・発】

道路学内貫通反対を決議

豊中支部が総会で気炎あげる

豊中支部では十一月二十九日午後六時から市内「魚浅」で本年度秋の総会を開催した。

この日は校友会から岡野副会長、門上組織部長が出席、大学からも矢口学長代行が出席した。会は安富支部長の挨拶ではじまり矢口教授の大学現状説明、岡野副会長の挨拶、門上部長の高速道路貫通問題説明があった。議題、役員改選については満場一致で留任となり榎原副支部長の各神宮速道路反対貫通反対決議案を全員拍手をもって可決、強力な対策を支部として推進することになった。

視聴覚器に続き懇親の宴を開き、すきやき鍋をかこんで歓談、午後九時すぎ閉会した【K】

枚方支部幹事会開く

枚方支部では十一月二十一日午後六時から幹事会を開催した。この日は吉田支部長ほか名越、下野支部長村上精二

五十経会が秋季例会　五十経会（いそけい会＝昭13専経）では秋季例会を十一月五日午後六時から大阪北区・泰華楼で行った。

この日集った会員は北本誠一、稲野治兵衛、平沢農一、日俣正三、田岡隆、亀有正男、佐藤寿夫、唐川次夫の七氏で各自消息話をひろう、親睦を深めた。日本教員団体連副委員長の肩書をもつ亀有氏はこの日の新顔で過日まつ子さんと結ばれたという田岡氏とともに人気を集めていた。

昔を再現？出席簿も飛びだす

関甲の十期生が懇親会

関西甲種商業の十期生が寄って懇親会が開かれ、なつかしい思師を合せて二十六氏がさる十一月十七日午後六時、太融寺「清竹」に集った。

この日は恩師三島律夫、中村秀光、古川武、笠西大次郎、道端常次郎の各氏が出席、それぞれ祝辞をのべた。一同は恩師を囲んで記念撮影ののち懇親の裏にあり久しぶりの会合で話題は次から次へと続いた。まことこの日は東京からわざわざ林弘高氏も田中久雄氏と共にかけつけ学友との再会をよろこんだ。現在二中・一高校長の三島律夫氏は当時まだ新進気鋭の先生であり、思い出草にと当時の成績表や出席簿を持参「出席をとります」と読みあげられたので一同昔を振りかえり大笑い。なごやかな懇親会は午後九時をすぎ盛会裡に散会した。【写真＝関甲十期会【K】】

当日出席者

田中久雄、天野喜一、阿部博、浅野清、今井清、上田正直、植田善四郎、川西正雄、片山政一、勝清一、高谷幸吉、辻井恒三、中辻淳奈須野一郎、西田一道、林弘高、久井忠雄、松田収三郎、原順二郎、辻野昌夫、嘉藤虎次

恩師の思い出話聞き入る

昭六会が定例秋季総会

昭和六年卒業の有志で結成されている昭六会ではさる十一月十五日午後六時から「北京」で本年度秋季総会を開催した。

この日は岩崎、矢口教授ら恩師も出席、世話人上野俊彦氏の挨拶で開会した。また席上、学友石田孝之氏が逝去された折の供花のお礼と、事務局報告があり、会費納入方法を調査する【坂本竜夫・発】

正式な組織へ第一歩

日産自動車関大会開く

大阪日産自動車株式会社は本社を福島区にもつ自動車販売会社で営業所、工場が市内に四カ所ある。同社には三十六名の関大卒業生が従業しているが事業所が分散しているため同窓の情を温むには年一回の懇親会が唯一の機会だという。この日は約三十名の会員が出席、校友会からも櫻本副会長、宮崎組織部長らが参加してさっそく宴会に入った。まず幹事役の見島氏が「なりゆきにまかせて回を重ねてきた会だが、われわれの親睦と団結のために大いに役立っているものと信じる。この会の発展も時とともに伸びてゆくだろう」とあいさつ。このあと近藤北大阪工場営業課長ほか各氏が自己紹介を行い来賓の櫻本副会長も校友会の現状を報告「こんどは本部といろいろ

大阪支部　幹事会で決定

関大大阪倶楽部で存続

大阪支部では各地支部の拡充発展にともないやむを得ず改組改称しなければならぬ事情を諒察、今年の秋季総会でも議題にのぼり、あらためて十一月十九日役員会を開いてこの問題を検討した。

この支部は他の支部と異り古い歴史をもち各界の有力者で組織されているため、廃止せず、何等かの形で存続させることに総会では決定していたため、役員会では支部愛着説もでたが、発展的解消にふみ切り別個の組織体として出発することになった。

改称については色々案があったがすでに各地の支部で名称にとりあげているところもあるため大阪支部の名残りを惜しみ「関大大阪倶楽部」と決定した。倶に楽しむとの意味から特にカナ書を避けたわけ。なお来年の春季総会を開催する前に早目に準備の幹事会を開くことを申しあわせた。

改組改称にともなって会則を改正したが改正点次の通り。

第一条本会は関西大学校友の有志者を以て組織する▽第三条本会は関大大阪倶楽部と称する▽本会に左の役員を置く。理事長一名、副理事長三名以内、理事若干名、監事二名以内▽第六条理事長は本会一切の事務を総括する。副理事長は理事長を補け理事長差支えあるときは之を代理する。理事は諸般の事務を掌る▽第八条本会の会計年度は毎年四月一日から翌年三月三十一日とする▽第九条会員は会費として一カ年一二〇〇円とする。但し年二回に分納することができる。

神戸関大倶楽部総会開く

出版・栄転祝賀会も

神戸関大倶楽部では会員三千名を収録した名簿が完成したのを機会に、さる十一月日午後二時から県立農業会館で四十一名の出席を得て本年度総会を開催した。

山崎理事長の挨拶のあと大月会長が会館問題、総会、会則改正問題等の経過を報告し、久井専務からは大学の発展状況説明があった。議事、会計報告のあと役員を改選した。

商学部長山崎紀男教授がマッキンゼイ議長に招待されたときの模様やアメリカ大学を視察した状況を約一時間にわたって講演した。

一同は午後五時、学歌を斉唱し閉会した。当日は理事に三十五氏を選任したが役員会を開き次の通り決った。【写真＝神戸関大倶楽部】

理事長　山崎敬義▽常任理事　向井裕晃、水本信夫、細井三郎▽監事　水本千代松、橋本太一、瀬郷清市、野田俊春、大国雅己

出版記念と栄転祝賀会　この総会のあと午後六時から会員水本信夫氏が「土地建物の諸問題」を出版されたのと本井吉雄氏が神戸地検総務部長検事に栄転されたのをよろこび、北京楼で祝賀会を開いた。

山崎敬義氏表彰さる

神戸関大倶楽部理事長山崎敬義氏は十一月一日日本公証認人制度制定七十年記念式で法務大臣から勤続二十五年の表彰を受けられた。

隣接支部からも出席し

芦屋支部総会開催

芦屋支部ではさる十一月二十九日午後六時半から竹園で総会を開催した。まず松田副支部長が開会の辞をのべ田辺支部長の創設以来十六年の発展を喜ぶ挨拶があった。次に来賓として出席の大月校友会長、長柄副会長から校友会現情報告や祝辞がのべられた。議事に入り、竹谷副支部長の事業、会計報告を承認、会則改正も満場一致の承認を得た。役員改選では現支部長田辺由治郎氏が再選された。副支部長には竹谷裕至、松田秀彦両氏が決定され田蔵之助、下条小野右衛門、越智比古市、図師親徳、前田軍治、三木淳太郎、茶谷薫重、小村重次諸氏を顧問に決定した。武田蔵之助氏から帰朝談があり記念撮影ののち懇親会を開き、最後に学歌、学生歌を合唱、万才三唱して午後九時半散会した【写真＝芦屋支部【芦屋支部・発】】

祥久会が懇親総会

〝朋あり遠方より来たる〟

祥久会ではさる十一月二十一日久しぶりに旧交をあたためるため総会を開催した。場所は会員小島電太郎氏の経営する旅館「大市」にて六時からであったが早くから会員が集まり懇談をつづけ、六時すぎほとんどの顔が揃ったのを機に開会した。最初に河内氏が開会挨拶をのべ、矢野文雄氏、竹沢氏、江里口氏、野間秀泉氏らも挨拶、久しぶりに出席した会員の自己紹介もありなごやかであった。この日は久井専務理事も出席し祝辞を

市内中学教員　関大会

天六学舎で結成大会開く

大阪市内の中学校に勤務する校友を組織化する問題が以前から検討され、準備が進められていたがその機が熟し、さる十一月二十二日午後三時から天六学舎で結成大会を開催した。

まず最初に会則を審議決定したのち会の名称については改めて検討の末決定することに決めた。役員の選出に入り、後藤正身氏が会長に選ばれた。

来賓として出席の大月会長は「母校関大を発展さすためにもあなたがたに立派な生徒を送りだしてもらうよう努力してほしい」とあいさつと激励をのべた。また櫻本副会長も校友会現況を報告、門上組織部長の祝辞があり久井専務理事が母校の現状をのべ発会を祝って懇親会をひらいた。

出席した会員一同なごやかに会食し盛会裏に閉会した。【K】

大人とは半禿と半白か

千里山十二会総会便り

自由経済から一途に統制経済に急テンポに突入しいる時代、僕等の大学卒業の年には北支事変が始ったのだ。それから二十一年何カ月が経過した。今秋の例会は去る十一月二十七日難波新地の喜楽別館で開かれた。ヤア暫らく！と懐しそうに手を握る二人は半禿と半白だ。もう大人の会合だなあ！との感が一入強くなって来た。取り交す名刺の肩書き、話の内容も大人である。仕事の話しも大人なら、遊びの話しも大人である。隣りに座った酌婦がこんな歌を唱ってくれた。

課長に、部長に、社長さん
長がそんなに偉いなら
巻もあります、長の字が
胃腸に盲腸に、御開帳

長があってもなかっても、会えば紅干里となり、嵐つんざく鳳の、そして、自然の秀麗人の親和に！大いに語り、大いに歌い、大いに飲んだ。そして次は来春千里山学園で催すことに決めて散会した。

千里山十二会への連絡は北区鳴尾町一〇、長柄金吾方へ

東定川支部役員決定

大阪東淀川支部（支部長矢野文雄氏）では過般来役員の選考をしていたが、ようやく次の通り決定した。なお同支部では十一月十七日初の役員会を開催した。

顧問　安東彦太郎、井上永次、生島信次郎、河南昌、金光三郎、黒井鑾、小林才市、重浦春水、鈴木多吉、田中修、土橋四三、長崎隆雄、西田捲三、野々村可人、林武彦、藤村修三、藤田正明、渡辺正人。

相談役　赤堀一男、相沢正二、井田太郎、神吉等、川口定太郎、岸本房子、木沢才蔵、菊池圭一、小松原実、藝井泰忠、滝本謙吉、西口克己、橋本俊、福村敏雄、松井清、正木芳貨、宮岡四一、名剣要一、山下邦宣、吉田年孝

副支部長　大西久男、新熊菊次、

関大大阪倶楽部で存続

大阪支部　幹事会で決定

大阪支部では各地支部の拡充発展にともないやむを得ず改組改称しなければならぬ事情を諒察、今年の秋季総会でも議題にのぼり、あらためて十一月十九日役員会を開いてこの問題を検討した。

この支部は他の支部と異り古い歴史をもち各界の有力者で組織されているため、廃止せず、何等かの形で存続させることに総会では決定していたため、役員会では支部愛着説もでたが、発展的解消にふみ切り別個の組織体として出発することになった。

改称については色々案があったがすでに各地の支部で名称にとりあげているところもあるため大阪支部の名残りを惜しみ「関大大阪倶楽部」と決定した。倶に楽しむとの意味から特にカナ書を避けたわけ。なお来年の春季総会を開催する前に早目に準備の幹事会を開くことを申しあわせた。

改組改称にともなって会則を改正したが改正点次の通り。

第一条本会は関西大学校友の有志者を以て組織する▽第三条本会は関大大阪倶楽部と称する▽本会に左の役員を置く。理事長一名、副理事長三名以内、理事若干名、監事二名以内▽第六条理事長は本会一切の事務を総括する。副理事長は理事長を補け理事長差支えあるときは之を代理する。理事は諸般の事務を掌る▽第八条本会の会計年度は毎年四月一日から翌年三月三十一日とする▽第九条会員は会費として一カ年一二〇〇円とする。但し年二回に分納することができる。

神戸関大倶楽部総会開く

出版・栄転祝賀会も

神戸関大倶楽部では会員三千名を収録した名簿が完成したのを機会に、さる十一月日午後二時から県立農業会館で四十一名の出席を得て本年度総会を開催した。

山崎理事長の挨拶のあと大月会長が会館問題、総会、会則改正問題等の経過を報告し、久井専務からは大学の発展状況説明があった。議事、会計報告のあと役員を改選した。

商学部長山崎紀男教授がマッキンゼイ議長に招待されたときの模様やアメリカ大学を視察した状況を約一時間にわたって講演した。

一同は午後五時、学歌を斉唱し閉会した。当日は理事に三十五氏を選任したが役員会を開き次の通り決った。【写真＝神戸関大倶楽部】

理事長　山崎敬義▽常任理事　向井裕晃、水本信夫、細井三郎▽監事　水本千代松、橋本太一、瀬郷清市、野田俊春、大国雅己

出版記念と栄転祝賀会　この総会のあと午後六時から会員水本信夫氏が「土地建物の諸問題」を出版されたのと本井吉雄氏が神戸地検総務部長検事に栄転されたのをよろこび、北京楼で祝賀会を開いた。

山崎敬義氏表彰さる

神戸関大倶楽部理事長山崎敬義氏は十一月一日日本公証認人制度制定七十年記念式で法務大臣から勤続二十五年の表彰を受けられた。

隣接支部からも出席し

芦屋支部総会開催

芦屋支部ではさる十一月二十九日午後六時半から竹園で総会を開催した。まず松田副支部長が開会の辞をのべ田辺支部長の創設以来十六年の発展を喜ぶ挨拶があった。次に来賓として出席の大月校友会長、長柄副会長から校友会現情報告や祝辞がのべられた。議事に入り、竹谷副支部長の事業、会計報告を承認、会則改正も満場一致の承認を得た。役員改選では現支部長田辺由治郎氏が再選された。副支部長には竹谷裕至、松田秀彦両氏が決定され田蔵之助、下条小野右衛門、越智比古市、図師親徳、前田軍治、三木淳太郎、茶谷薫重、小村重次諸氏を顧問に決定した。武田蔵之助氏から帰朝談があり記念撮影ののち懇親会を開き、最後に学歌、学生歌を合唱、万才三唱して午後九時半散会した【写真＝芦屋支部【芦屋支部・発】】

祥久会が懇親総会

〝朋あり遠方より来たる〟

祥久会ではさる十一月二十一日久しぶりに旧交をあたためるため総会を開催した。場所は会員小島電太郎氏の経営する旅館「大市」にて六時からであったが早くから会員が集まり懇談をつづけ、六時すぎほとんどの顔が揃ったのを機に開会した。最初に河内氏が開会挨拶をのべ、矢野文雄氏、竹沢氏、江里口氏、野間秀泉氏らも挨拶、久しぶりに出席した会員の自己紹介もありなごやかであった。この日は久井専務理事も出席し祝辞を

市内中学教員　関大会

天六学舎で結成大会開く

大阪市内の中学校に勤務する校友を組織化する問題が以前から検討され、準備が進められていたがその機が熟し、さる十一月二十二日午後三時から天六学舎で結成大会を開催した。

まず最初に会則を審議決定したのち会の名称については改めて検討の末決定することに決めた。役員の選出に入り、後藤正身氏が会長に選ばれた。

来賓として出席の大月会長は「母校関大を発展さすためにもあなたがたに立派な生徒を送りだしてもらうよう努力してほしい」とあいさつと激励をのべた。また櫻本副会長も校友会現況を報告、門上組織部長の祝辞があり久井専務理事が母校の現状をのべ発会を祝って懇親会をひらいた。

出席した会員一同なごやかに会食し盛会裏に閉会した。【K】

大人とは半禿と半白か

千里山十二会総会便り

自由経済から一途に統制経済に急テンポに突入しいる時代、僕等の大学卒業の年には北支事変が始ったのだ。それから二十一年何カ月が経過した。今秋の例会は去る十一月二十七日難波新地の喜楽別館で開かれた。ヤア暫らく！と懐しそうに手を握る二人は半禿と半白だ。もう大人の会合だなあ！との感が一入強くなって来た。取り交す名刺の肩書き、話の内容も大人である。仕事の話しも大人なら、遊びの話しも大人である。隣りに座った酌婦がこんな歌を唱ってくれた。

課長に、部長に、社長さん
長がそんなに偉いなら
巻もあります、長の字が
胃腸に盲腸に、御開帳

長があってもなかっても、会えば紅干里となり、嵐つんざく鳳の、そして、自然の秀麗人の親和に！大いに語り、大いに歌い、大いに飲んだ。そして次は来春千里山学園で催すことに決めて散会した。

千里山十二会への連絡は北区鳴尾町一〇、長柄金吾方へ

東定川支部役員決定

大阪東淀川支部（支部長矢野文雄氏）では過般来役員の選考をしていたが、ようやく次の通り決定した。なお同支部では十一月十七日初の役員会を開催した。

顧問　安東彦太郎、井上永次、生島信次郎、河南昌、金光三郎、黒井鑾、小林才市、重浦春水、鈴木多吉、田中修、土橋四三、長崎隆雄、西田捲三、野々村可人、林武彦、藤村修三、藤田正明、渡辺正人。

相談役　赤堀一男、相沢正二、井田太郎、神吉等、川口定太郎、岸本房子、木沢才蔵、菊池圭一、小松原実、藝井泰忠、滝本謙吉、西口克己、橋本俊、福村敏雄、松井清、正木芳貨、宮岡四一、名剣要一、山下邦宣、吉田年孝

副支部長　大西久男、新熊菊次、

ニコニコ貯金
不動信用組合
理事長　川面　潤一
本店　大阪市東区博労町2-12
電話　大阪㉖210,4591—4
北支店　大阪市北区浮田町109　電話豊崎㊲8621—3
玉造支店　大阪市天王寺区南玉造町22　電話南㊱2215・2216
堺支店　堺市三国ケ丘御幸通り105　電話堺9220・4210

明日も豊かに

創業40周年
記念定期　お取扱い中
信託併営
大和銀行
本店　大阪市東区備後町2

日本生命大阪南支社
支社長　小泉博（昭七大法卒）
支社　大阪市東区北久宝寺町二丁目
電話　(26)9909 14 11 99 09

就職まずは好成績

約千人が落着く

だが今後の伸びが心配

ナベ底景気だの何だのといわれながら、ことしの就職戦線もいよいよ後半にさしかかった。既報のように大会社の採用試験はほとんど出つくし、次々と晴れの合格者が関大からも出ているが〝はじめの予想からみれば案外いい成績だ〟というのが大方の評判だ。それでは、いったい何人が決定し、どんな分野にくい込んでいったか？また、ことしの見通しはどうだろうか。あわただしい千里山就職部にたずねてみた。

主な就職先（11月末現在・順不同）

大阪市役所、大阪ソーダ、関西電力、倉敷レーヨン、幸福相互銀行、四国銀行、鈴木自動車工業、竹中工務店、中央相互銀行、東洋毛織、東洋火災海上、東洋綿花、日本スプレーガン、日本火災海上、百五銀行、兵庫相互銀行、福岡相互銀行、扶洋商会、豊国紡績、北国新聞、松下興産、山下証券、東洋レーヨン、日本生命、村田長、松下商店、日本経済新聞、明治生命、大阪銀行、富山化学工業、角丸証券、大阪東消防局、旭広告、ホンダ販売、早川電機、長谷川工務店、丸栄商事、鑑子商店、大平商事、宝塚索導管、朝日火災海上、共栄生命、大日本土木、前田製粉、イサム塗料、日星電機、オニツカ、関西ピーエス、長野計器製作所、三洋電機、丸三証券、但陽信用金庫、同和火災海上、日本通運、蛇目ミシン、オーナンバー化工、七福相互銀行、富国信用組合、千代田組、野村貿易、福徳相互銀行、丸文、橋本重一業、市田、南都銀行、早川ゴム、エムバイア商事、高千穂交易、池田銀行、第一火災海上、住友生命、大阪府庁、毎日放送、三協紙業、尼崎信用金庫、東京発動機、天野特殊機械、共栄火災海上、日吉回漕店、安藤組、明光証券、明朗繊維、神戸トヨタデイーゼル、神戸電機、帝国酸素工業、イサム塗料、ゼネラル照明器具、西宮市役所、日東電気工事、森川商会、東洋ベアリング製造、大竹商事、国際自動車、飛島土木、大阪相互銀行、大久、近畿相互銀行渡辺運動用品、丸善石油、高島工作所、富国信用組合、クレバス本舗、相互信用金庫、大阪シ阪プリンス自動車、新大阪ゴム、江守バルブ、玉川電器、神戸市役所、山源証券、徳島相互銀行、国光商事、岩倉印刷、丸嘉、関西モーターター、光薬品、兵庫新菱自動車、平和紙業、秋毎護謨、ナショナル証券、兵庫プリンス自動車、岡三証券、日本オルガノ商会、大阪バッキング、大阪商事、日東証券、山菱電機、加藤産業、むねむら、関西保温工業、未広商店、新滋賀相互銀行、大阪印刷インキ、三晃社、浪速日産モーター、千土地興業、喜多本店、ウエスト化学、大阪新菱自動車、阪本印刷、大阪証券、近畿電々公社、六甲製糸、日本急送、東亜マッチ、芦屋市役所、ニュー関西モーター、大阪信用金庫、大阪マツダ販売、日新自動車、大阪市信用金庫、木村印刷、初田製作所、中本商店、中国電気工事、播州信用金庫、大鉄工業、島津ダイカスト製作所、神港信用金庫、第三相互銀行、朝日放送、大正相互銀行。

▽…「ことしの新しい傾向として各社の採用試験が集中化しているようです。だから中小企業も大企業とほとんど同時に求人してきたので、もう採るところは採ったという感じですね」と就職課では話す。

毎年入社試験は早くなる傾向にあるといわれるが、ことしはとくに協定きりきりのところで〝同じ採るならい学生を〟と大会社はむろん中小企業も十月にはすでに採用者を決めるという状態だった。しかも不景気のあおりをくって小企業では採用しないところも多いので例年なら十二月から翌年二月ごろまでにどっと求人してくるお得意さまもことしはどこまでいい話を持ってきてくれるか一就職課でも心配している。全国の三割を占める大阪の繊維業界の不況が、そこに活路を持ってきた地元求職者としてとくに打撃が大きく昨年とことしの差はその点がポイントとなっているようだ。

▽…それでは、いったい何人が就職をきめたか。来年三月卒業予定者三四七六名（一二部を合せて）のうち求職する三三八名の五割弱。つまり約一〇〇〇名が十、十一月の間に落ちついた。別項に示したとおり就職先は金融、保険、銀行、商事が多い。

「どうもうちの学生はより好みが多い。腹をくくってどんな仕事でも自分で開拓していこうという意気込みさえあれば就職口はもっと沢山あるんだが……」と山影課長はこぼす。なぜか事務系を志望する学生が新時代にもかかわらず圧倒的に多いというわけだ。

▽…記者「ことしの伸びが心配されているが、何か明るい見通しはないものでしょうか」就職課「最近百社ほどの中小企業を訪問して様子をうかがってきたが、繊維をのぞいてそう悲観すべきでもありません」記「不景気はどこまで響いていますか」就「不景気も底をついたようなのでぼつぼつ採ろうかというところも出てきました。景気の回復で暗い予想をたてていた来年二、三月の求人も期待できるものに変りましょう」

▽…そして最後に山影課長はとう強調した。

「会社が大学卒業生を採用する目的は新しい時代の新しい開拓者を求めているからです。事務なんかなら高校を出た女子でもできるのに大学卒業生は必要でない。会社がわれらに期待するものは〝大学マン〟としてどんどん新しい開拓分野にうちこんでゆける営業力のある人なんです。机ということにこだわらず、もっと新しい考えで就職問題にとり組んでほしいと学生たちに訴えたいですね」

「血の通った活動を……」

校友会でも対策話合う

校友会でもたえず就職対策を検討しているが過日清交社に職域・同期会代表者を招き懇談会を開催した。

この日は校友会側正副会長、各部長、組織部員、事業部員が出席、大学からも学長（代）各学部長、就職部長、就職課長が出席した。まず櫻本副会長が挨拶、就職について各界に活躍する校友の協力を要請した。大月会長も校友会進歩の足跡と府下の組織強加問題を説明した。そのあと学長代理和田法学部長、白川理事長、久井専務理事、阿部評議員会議長も挨拶ならびに現状報告を行い出席者紹介のち岡野副会長を議長に議事に入った。村上事業部長は

「校友会組織は現在、地域、職域支部、職域会その他あわせて百五十以上に及ぶが今日までこんな会合はなく一堂に代表者が会して懇談するのは時宜を得たもので、もっと多くの校友が参加されるべきかれがこのような状態では対立教職に好投した竹村（三回より近藤を救援し3安打、無四死球、3三振）だけということにもなりかねない。中尾、水原、水上などの躍進が期待される。攻撃面においても同じように主力選手はほとんど抜けた。残っているのは仲川大原、久保川くらいである。二試合を通じて11安打でその半分以上の6本が長打、14三振、犠打なしは旧チームとは別に、打線の上では大型化されたといえようが打法が粗雑だった。やはり確実にミートする打法をマスターするべきだろう。立教戦のようにチャンスに安打が出なかったのも、やたらに強振しすぎたためであろう。豪快な中にも確実さがほしいものである。また旧チームのような走塁の巧みさが見られず再三チャンスをつぶしていた。守備面では一試合での失策7は、弱体な投手力を十分カバーできず逆に負担をかけていた。とくに慶大戦での失策6は大敗の原因であった。また捕手の投手リードについてもいま一歩の研究が必要と思う。しかし匂坂主将を中心としたチームワークは旧チームに少しも劣っていないしスケールの点でも攻撃面では大型化し見劣りはしない。あとは弱体化した投手力、守備力の強化、そしてそれをカバーする攻撃力にどの程度の確実さを出せるかが今後の大きな問題である。まだまだ未完のチームであるが来年度リーグ戦までに川村監督、匂坂主将以下選手たちの努力により大きな飛躍が期待される。（阿部邦彦＝関西六大学野球連盟公式記録員）

関大カラー〝を生かして〟

プロ野球にすべてをかける

【村山実】

私はこのたび伝統ある大阪タイガースに入団することが決定、いよいよプロ野球へ第一歩を踏みだすことになった。

野球しか取りえのない私にとってプロ野球は最大のあこがれであったし、また唯一の生道であった。私がタイガースを選んだ理由は、もちろん幼少のときから阪神ファンであったことも一つだが、何といっても職業として自分の将来をよく考えたすえ、もっとも条件に合ったチームだと認めたからだ。二年前、大学選手権大会で全国制覇をとげたとき、巨人、阪神、大映、阪急といったところから誘いの話がかかった。事実、私は迷った。大学をやめてプロで力をためすか、大学生として人間研鑽を全うするか――私は自分自身の〝人間〟について熟考した結果、後者をえらんだ。「だが卒業後は一つの就職として考える」ということでプロの勧誘を断った。プロ野球の隆盛とともにスカウトの眼はすみずみに光っているようだが、眼先の花やかさに感わされて大学を中退するほどのことはないだろう。このことばこんどとくに後輩に注意してもらいたい。学歴は自分自身の一生のことでもあるさて私にとって最大の苦難は肩を痛めた一年間だった。だがこの一年間の苦悩は今日の自分を作る大きな基礎となったと信じる。まさに表現に絶する苦悩の中で私はいろいろな経験と得難い教訓をうけた。再起不能のデマ、親友の裏切り、肉親の死……救いのない毎日だった。しかしその中にあって、つねに親代りに私をいたわってくれる二人の兄、暖かく励ましてくれる多くのファンに接するとき私の希望と闘志はあすへ向って大きく息づくのだった。

昨年の二月、母親が他界したときにこんなエピソードがある。入院していた母親があまり元気でない顔で帰ってきた。弘兄は「正月が迫っているから母は退院したのだ。もうすっかり元気になったし、来年はよい正月を迎えられるヨ」と私の肩をポンと叩いた。しかし、母は間もなく死んでしまった。事実、母は医者に見離されて家に帰ってきたのだ。私はこの事実を知って兄の心にうたれて言葉が出なかった。死んだ母も、あの世からきょうの私をみて喜んでくれているだろう。

また私のカムバックに細心の注意を払ってくれた川村監督および同僚たち一みんな〝村山を勝たしてやろう〟と力一杯プレーしてくれた。エラーをしたからと申訳なさそうに帽子をとる下級生たち…そうした姿をみて私はしみじみ幸福感をかみしめるのであった。

変に感傷くさくなって肝心の抱負というものが書けないが、先日初めてタイガースの練習に参加して感じたことを記してみよう。

プロ野球に入って最初の印象は、各選手が職業意識に徹していることだ。何よりも自分の技量を大切にする。実力本位の世界だから完全に個人競技に落ちつく。だから一見してバラバラのような感じだがそこにはまたプロ野球独特のチームワークが行きわたっていると見受けられる。私は今後の生活に学生野球の貴重な体験をできるだけ生かしてゆきたい。長いアマ野球生活から得たよい面をプレーの上にも精神面にも自分のものにしてベースボールに専念しようと思う。

ともかく多難なプロ生活においてどんな苦しい事態に直面しても私はきっと頑張りとおせるだろう。決してヘコたれたりしない。そんなとき、肩を痛めた一年間の経験が強く自分をささえてくれるだろうから。

正月中旬からいよいよキャンプインだ。目下の心境はと聞かれれば私は次のように答える。

―早くマウンドに立ちたい。そして一日も早く一勝を飾りたいと。

そして、当面の目標はと問われると私は、やはり同じことを答えるだろう。

「まず一勝」これがこれからの基礎となる。一勝がとれないで二勝はとれるだろうか。まして新人王なるタイトルは望めない。

一生忘れることのできないあの感激！関大入学して二年目の春のリーグ戦で野球生活初の優勝を味わった感動、しかも最優秀選手に選ばれたうれしさ。そして――失意と苦悩の一年間。学生生活を全うさせるために親身になって面倒をみてくれた兄、つねに再起への道をひらいてくれた地元のファン一数えきれない思い出を残して、あすからのプロ生活に第一歩を踏みだす自分をふりかえってみると感慨無量なものがある。

あくまで「豪快」「ファイト」の関大カラーを生かして精一杯努力する決意だ。校友諸兄のいっそうのご教言をおねがいして筆を置く。

新チームにみる関大ナイン来年の戦力

投、守ともに粗雑

打法に確実さがほしい

ことし春秋二連覇というかがやかしい戦績を残した関大は来シーズンも大量の卒業生を送り出すことになった。今シーズンはほとんど全部の位置を最上級生が占めていたので来年の陣容は匂坂新主将を中心にすっかり変った。新チームの最初の試合が十一月中旬に行われた東西六大学野球戦である。二試合だけではよくわからないが来年の戦力を打診してみよう。

対立教戦は1X－0で惜敗だった。二回裏五番尾山安打、六番三振の、あと近藤の一撃はレフト線の二塁打だったが尾山の走塁悪くホーム寸前でタッチアウトとなり絶好の先制機を逸した。その後も六回、七回に無死で走者を出したが、いずれも強攻策で失敗ついに無得点に終った。対慶応戦においては一回表近藤の立ち上り悪く6本の長短打をあびて大量6点を失い、加えて打線も振わず17－2の大量で敗れた。この二試合では来年のエースと期待されている近藤が立ち上りの不安定さを暴露したことは村山、前川と好投手を送り出して一番弱体な投手陣の中心となるべきかれがこのような状態では対立教戦に好投した竹村（三回より近藤を救援し3安打、無四死球、3三振）だけということにもなりかねない。中尾、水原、水上などの躍進が期待される。攻撃面においても同じように主力選手はほとんど抜けた。残っているのは仲川大原、久保川くらいである。

二試合を通じて11安打でその半分以上の6本が長打、14三振、犠打なしは旧チームとは別に、打線の上では大型化されたといえようが打法が粗雑だった。やはり確実にミートする打法をマスターするべきだろう。立教戦のようにチャンスに安打が出なかったのも、やたらに強振しすぎたためであろう。豪快な中にも確実さがほしいものである。また旧チームのような走塁の巧みさが見られず再三チャンスをつぶしていた。守備面では一試合での失策7は、弱体な投手力を十分カバーできず逆に負担をかけていた。とくに慶大戦での失策6は大敗の原因であった。また捕手の投手リードについてもいま一歩の研究が必要と思う。しかし匂坂主将を中心としたチームワークは旧チームに少しも劣っていないしスケールの点でも攻撃面では大型化し見劣りはしない。あとは弱体化した投手力、守備力の強化、そしてそれをカバーする攻撃力にどの程度の確実さを出せるかが今後の大きな問題である。まだまだ未完のチームであるが来年度リーグ戦までに川村監督、匂坂主将以下選手たちの努力により大きな飛躍が期待される。（阿部邦彦＝関西六大学野球連盟公式記録員）

栄冠吉見に輝く

複でも菅野組が

関西学生新人庭球

三十三年度関西学生新人庭球トーナメントは一週間の熱戦のすえ十二月三日、男子単は吉見（関大）―浜野兄（関学）同復は菅野、松井優（関大）―石井、浜野兄（関学）により決勝戦が行われた。優勝候補関大菅野は単で六回戦で敗れる番狂わせを演じたが吉見は松井優、菅野を破った浜野兄と対戦、四時間におよぶ大接戦の結果2―1で制勝、晴れの栄冠をかちとった。まず第一セットは5―0とリードしながらおしくも15―40のセットポイントを落したことがたたって5オールにまでバンカイされ浜野のねばりに屈した。しかし第二セット6―2、第三セット6―1と浜野を圧倒、キャリアのうまみ、試合度胸でおしまくったダブルスの菅野、松井優組は石井浜野組と互角の試合をしながら不運なポイントを落し6―1、6―4のストレート負となった。なおこの大会での関大選手の成績次のとおり。

【一回戦勝者】（単）菅野、国田、京谷、上山（復）菅野・松井。

関西学生選手権

重量挙部が初優勝

第三回関西学生重量挙選手権大会は十一月十六日アベノ体育館で関学、同大、近大、甲南大、関大の五校が集まり覇をきそった。歴史の浅い関大重量挙部はよく奮戦、強豪同大をおさえて堂々初優勝をかざった。

【二回戦】（単）菅野、松井、浜野、池村、西村、上山、国田、習田、吉見。

【三回戦】（単）菅野、松井、西村、上山、国田、習田、吉見（復）吉見・鈴木、森・上山、菅野・松井。

【四回戦】（復）吉見・鈴木、菅野・松井。

【五回戦】（単）菅野・松井、吉見。（復）菅野・松井優。

【六回戦】（単）松井、吉見。

【準決勝】（単）吉見66―32松井（復）菅野、松井66―46―0浜田、太田（関学）

▽フライ級　②中住プレス60　スナッチ55　ジャーク75（F）190㌔

▽バンタム級　②宮越プレス67・5（大会タイ）スナッチ67・5　ジャーク85（大会タイ）（F）220㌔

③中村プレス62・5　スナッチ65　ジャーク85（大会タイ）（F）212・5㌔

▽フェザー級　①弓田プレス75（大会タイ）スナッチ77・5（大会新）ジャーク95（F）247・5（大会新）

▽ライト級　④上田プレス85（大会新）スナッチ82・5（大会新）ジャーク110（大会新）（F）277・5㌔（大会新）

▽ミドル級　②上野プレス80　スナッチ75　ジャーク95（F）2㌔

③藤田プレス72・5　スナッチ65　ジャーク87・5（F）225㌔

【団体対抗戦】

関大15点　同大14点　関学1点

好記録で独走

びわ湖一周　関西学生駅伝

輝く二連勝

9時間47分52秒

びわ湖一周第二十回学生駅伝競争大会は〝関大強し〟の予想のうちに十一月二十九・三十日十三校の参加で行われ、関大は第一日目にして早くも独走態勢に入り二位近大を11分38秒も引きはなす好調さだった。

この駅伝は大津市滋賀県庁前をスタート、びわ湖を右回り長浜市電電公社前にいた104・4㌔、第一日目は同所を出発大津着の70・2㌔のコース。

第一日目＝関大は立命の不振をよそにソツのないレースをつづけ灰野、高橋、赤沢、馬場、東川、井上、沢田がよく走った。二区高橋にはじまり三、四区ではすでに近大との差を6分以上あけていたし、それ以後も調子を落すことなくさらにピッチを上げ二連勝、度目の優勝を不動のものにした。

①関大5時間54分39秒②近大6時間06分17秒③立命6時間10分59秒④同大⑤甲南（以下略）

第二日目＝前日とはうって変って雨中のレースとなった。関大は前日と同じメンバーをたてて、やはり7分18秒差でトップでゴールインしたがこの日のすべり出しは決してよくはなかった。三区を受けもつ東川は前日の劣勢挽回に懸命な立命、近大を持前の軽走でふりきり、つづく高橋も雨に足をとられながらも強引におしきり第一日目と同様立役者になったのは賛えられる。

①関大（灰木、井上、東川、高橋、馬場、沢田）3時間53分13秒②近大4時間6分24秒③同大4時間6分24秒④立命⑤京大（以下略）

【二日間通算】①関大9時間47分52秒②近大10時間12分41秒③立命10時間23分40秒④同大10時間33分32秒⑤甲南⑥京大⑦京学大⑧大学大⑨阪大⑩大府大⑪奈学大⑫神商大⑬大工大

なお通算9時間47分52秒は三十二年全日本地区対抗の九州が立てた最高記録につぐもので輝かしいレコードである。

関西学生サッカー

谷本田谷中　花田北口
12　6　12－1
K　K　K　K　K　B　B
G　C　F　P　G　F　H　B　FW
11　8　14－1
吉杉康前鴨弘　朴
立桝柴北
【関大】達吸田田村野治崎　田水
【関学】安指黒保杉佐志岩　李神清

▽減点法

関学	260	－	306	立命
関大	307	－	323	同大
神大	202	－	384	立命

【順位】①関大5勝0敗②神大3勝2敗③同大3勝2敗④立命2勝3敗⑤関学2勝3敗⑥大府大0勝5敗

小松シングルスで三位

全日本バドミントン

全日本バドミントン個人戦で関大小松は三位となった。

対決三たび関学に惜敗

賛えられる不屈の闘志

同大会は十一月二十五日から二十七日まで欠留米大学体育館で行われ小松はシングルスで勝ちすみ準決勝で小宮（立教）と対戦、2―1で惜敗した。つづく三位決定戦では星野（法政）に2―1で辛勝し三位を守った。

後半関大の出足がまだ波に乗らないとみえた3分、関学は左に出た黒田が李へ、さらに李の好パスを中央に出ていた神田がシュートして先取点をあげた。しかし関大は、すかさず6分柴北がドリブルで一人抜いて立花へ渡し、立花も競り勝って朴のフリー・シュートで同点とした。さらに関大は23分ロビングの球を押した関学佐野の反則でPKをつかみ朴が決めて逆転した。しかし関学も直後25分のFKを杉村がけり、この球をゴール直正面で清水が後同きにボレー・キックすればあざやかにゴール右スミに決って再度同点とした。競り合いはいつ果てるともなくつづいたが30分過ぎから左右サイドから激しく関学が攻めるうち、33分ゴール前でFKを得、関大はこのピンチをとられ、李のキックはGK吉谷の右手をかすめたが左スミに決った関大はこの1点を返そうと必死に迫ったがついに及ばなかった。

関大はCF桝田が帰ったのはよかったが、思わぬ反則の不運に退いた。

しかし、負けたとはいえ関大がありったけの闘志をさらけ出して宿敵関学をおしまくったのはみごとで、新人柴北などの活躍は賞賛される。

これで関大は4勝1敗2分で二位となった。一部リーグの順位次のとおり。

①関学5勝2分③大経大3勝2敗④京学大1勝3敗1分⑤神大3敗2分⑥立命4敗1分。

【関大成績】関大5－2立命、関大7－0京学大、関大3－1神大、関大3－0大経大、関大1－1関学、関大2－2関学

古川、島谷、柴北ら

マラヤ訪問サッカーに参加

マラヤサッカー協会から招待をうけていた日本代表チームは十二月二十三日、日本を出発してマラヤで6試合、香港で1試合の日程で来年一月十三日帰国することが決まった。サッカー協会は、このほど代表メンバーを発表したが関大関係から四名加っている。

GK＝古川好男（日本ダンロップ・昭30卒）HB＝島谷征四郎（経二）FW＝佐々木康治（日本ダンロップ・昭32卒）柴北勝利（経一）

アイスホッケー三位

関西五大学アイスホッケー・リーグは同大の全勝優勝で十一月二十五日幕をとじた。関大は二勝一敗で三位となった。

スポーツ才評

強化策

⑪…十一月の東西大学野球では立命の内橋が早大の打線を手玉にとり、関学が東京六大学の至宝野（法大）投手を堂々と攻略しく、来春のシーズンは法大と並ぶ優勝候補ということ。それにしても春秋連続優勝した関大の新チームは、来春にはいよいよ奮起せよといたいところだ。

⑪…サッカーは健闘したものの関学に覇権を譲り、期待の相撲も全日本では三位に留った。アメリカン・フットボールも昔日の面影はないし、躍進のラグビーもまだまだの段階。昭和初頭の関大黄金時代を知るものには淋しい限りである。選手が試にパスしない、まずい部員と臨路は多いが、ここらあたりで総合的な強化策を考えないと、関大のスポーツは亡びるとの声が大きい。（S）

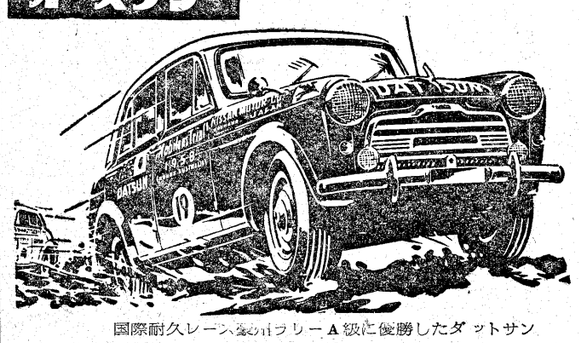
SPORTS スケジュール

【ラグビー】対法大戦＝十一月二十一日・秩父宮▽対明大戦＝十二月二十八日・花園▽対日大＝一月六日・花園

【アイススケート】全日本学生氷上選手権＝一月五～十四日・帯広。

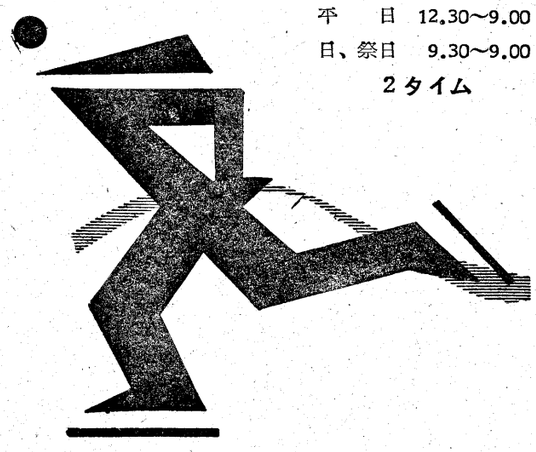
【スキー】全日本学生スキー大会＝一月十三～十八日・長野県野沢▽全関西学生スキー＝一月十九～二十一日・野沢▽アルペンならびにジャイアンツスラローム＝二月二・三日・神鍋山

石炭・コークス
藤岡商事株式会社
取締役社長　藤岡　勇（昭8大法）
大阪市西区江戸堀北通二丁目一
電話　大阪㊹3168

ニッサン　ダットサン　オースチン
強力　経済　耐久
世界の小型車
夢の乗心地

国際耐久レース最高ランクA級に優勝したダットサン
大阪日産自動車株式会社
本社　大阪市福島区下福島1の4　TEL代㊹7951・6971
堺支店　堺市海山町2の143　TEL（代表）堺6234
天王寺営業所　大阪市天王寺区下寺町4の16　TEL㊲2375－7

ツバメ印石油製品

丸善石油
取締役社長　和田完二
本社・大阪・長堀橋
支店・東京・大手前

営業時間
平日　12.30～9.00
日、祭日　9.30～9.00
2タイム

桜宮スケートリンク
市電東野田電停前
TEL㊸9507.9489

全製品元扱
三菱電機製
螢光灯・安定器・水銀灯・モートル
トランス・ホイスト・テレビ
其他家庭用電気器具
長浜樹脂製塩ビ電線管及接手
TC　株式会社　立花商會
本社　大阪市東区本町2丁目43
電話大阪（26）0671代表
支店東京都大田区入新井6丁目67
電話大森（76）3340　6925

イギリスは老貴婦人か

恐るべき産業資本・金融資本の結合

高木秀玄（経済学部教授）

本稿はさる十月十七日校友会主催で公開された学術講演会で高木教授が講演した「イギリスの社会と経済」から抜粋したものです。高木教授は昭和二十九年本学海外学術研究員としてヨーロッパをまわりイギリス経済をつぶさにみんてこられました。（編集部）

イギリスは「老たる貴婦人」といわれるが、常に世界を驚かすのもイギリスである。古くは製鉄の鉄鋼一貫作業、ジェット機、あるいはペニシリンが発見され古さの中の新しさで人を驚かせている。「老貴婦人」には違いないが、その老がどこまで進んでいるか、イギリスの新しさは何かを追求してみよう。

いつも学生諸君に話すことだが、このごろの経済学では「先進国」とか「後進国」ということばをよく使う。先進国とは資本の蓄積率が高いところで後進国はそれが低いところである。日本なんかも後進国だといわれている。私はこの区別の新しい方法を発見した。というのは飛行場のジュースがこのことに比例するおもしろい事実だ。羽田で飲むジュースはコップも普通で中味も町で飲むのと同じだが、沖縄へゆくとコップは大きくなる。ところが中味が全くいただけない。エジプト、カラチ、カルカッタといったところはやはりコップが大きいばかりで中味は水に黄色をとかしたようなものだ。ローマでやっとジュースが飲める。ロンドンにゆくとコップはぐっと小さくなるがジュースはしぼりたての濃厚なもので、これが私の「飛行場のコップの大きいところが、後進国」と結論づけたゆえんである。

だれでもイギリスに足を踏み入れるまでは戦争で軍艦は沈められ、多くの植民地は次から次へと失ってゆくイギリスを、もうだめだと思い込んでいる。よほどの老大国などと悪口をいう。

ロンドンで地下鉄に乗ったときに感じたことだが、ここの地下鉄はモスクワと同様深いことで有名で地下まで何本ものエスカレーターがついている。ゆっくり、正確に昇ってゆく。それに身をおきながら「イギリスの経済はどうだ」とも教えられた。

とてもテンポは遅いが正確に昇るのがイギリスだ。〃国の力を計るモノサシは道路だ〃と学生時代に教わったとおりイギリスの道は実に深くかたく舗装されている。私がイギリスを見なおした理由はそれだけではない。

イギリスへ行って下宿したとき、そこに身寄りのないおばあさんがいた。彼女が死んでからの話だが遺産の整理に立ちあった私は驚くべき事実をみせつけられた。身寄りのないおばあさんが実に三千万円の株券をもっていたのだ。イギリス人はすぐに株券を買い留めるこの辺にその根強さがあるように思える。

日本でもそうだがイギリスは徹底的に企業が独占化されている。日本では、まだ歯を磨くにはライオン、サンスター、着るものも鐘紡東洋紡とかいって種類に幅があるがイギリスは完全に独占化している。たとえば石けん、マーガリンを作るユニレバーは世界的な大会社がたがこの国の主婦は八割まで

がこの商品を買う。同社はナイジェリア、ゴールド・コーストなどからヤシの実、落花生、綿花をみんなとってしまう。ところがタコが何匹もいると競争が起る。競争が激化すると倒れるものが出て生産が集中する。これが資本の集中と結びついて、ただ一人の売手は銀行と結合する。イギリスのこの現れは十九世紀にはじまっている。ナベ底だの二重底だのといわれる現在の日本の経済でもそれは当てはまることだ。金融資本が手をのばして会社をのっとる。いわばタコは銀行という形態をとって経済を支配する。

一八八〇年代にある石けん会社が英領ソロモン群島に二〇万エーカー、コンゴーに一八七万五千エーカーの土地利権を獲得しダンロップ社もマライに九万エーカーのゴム栽培権をもっている。このように産業資本と金融資本が結合すると鬼に金棒である。結局は原料の調達をやって安くそれを買う。ほかの経済力の弱いところへ進出するソロモンなど弱い国はどんどん土地の利用権を持って行かれる。イギリスの独占はこのようにして国際的なものに伸びてゆくのだ。そのうえ各国に支店をもって〃ただ一人の支配〃が販売網まで自分のものにして結合された産業資本と金融資本は驚くべき力をもって後進国へ食い込んだ。独占の将来はレーニンがいうように「最大限の利潤をねらう一利潤の極大化」ということで〃もうかる〃こと。統計的にいっても大会社は驚異的な率で利潤を高めている。例えばシェル石油は四年間で八四%、ユニレバーは七九%、ICIと取引するある鉱料会社は、実に二〇四%の利潤をふやしている。大阪弁でいう「もうかってもうかってしょうがおまへん」の状態である。

それはなぜ資本主義プラス植民地諸国の労働力があるからだ。ところが、この偉大なイギリスがいまは下り坂をたどっているといわれる。一八八〇年工業生産が世界第一位。古き古き日のことだ。一八八〇年はすでにアメリカがイギリスを押えている。一九〇〇年にいたるともはやイギリスは第三位、アメリカ、ドイツが優位にあるる。なぜイギリスはこんなに落目になったか。そこに大きな問題がある。

先にのべたガンジガラメになった生産様式、古い古い社会構造が一つの原因となろう。

しかしイギリスの古さはおいそれとは手をつけられない。米国などは新しさから出発しているからいくらでも新しいものが生れる。イギリスは古さが古いからそれを取り払ってしまうわけにはゆかない。綿羊についても二つの意見がつねに議論されている。綿羊がイギリスの生命だとするものと古い繊維工業をうっちゃってこれからはプラントの輸出で国際収支の黒字をはかろうとするものが真向から対立している。ともかくいまのイギリスは病気になると手がつけられないほど老体なのだ。統計的にみてもイギリスはどんどん後退している。第二に、植民地相手に取引をして安逸をむさぼっていたから安く買うので従業員はヨーロッパで二十五万人はいるといわれる。これが典型的なイギリスの企業である。古いものがガンジガラメになっている。こういう社会—その背後操るものはだれか？

それは五十人ほどのファミリーである。日本でいえば旧財閥のようなものだ。それがさらに保守党と結びつき態勢をかためる。米国ではモルガン、デュポンなどという六十家族が経済を握っている。これを経済学では独占とみる。ただ一人の売手のことだ。これが海底のタコのように手をのばして獲物をみんなくってしまう。ところが

それにつけ、ことで、すいぶん老人をばかにしておりましょう。

江戸時代には文章や文献なんかの少ない時代では長寿の人は長い経験を多量に貯えているため、かなり尊敬され、ことに有識故実というものが重きをなした時代には何事にも先例があり〃あの老人にいって聞けばわかる〃ということから長寿者が社会のリーダーになっていたわけです。これは農村でも同じで水田耕作などでは当然長い経験によるうどい感覚をもっているものがリーダーとなります。これは漁村でも同じことで長寿の人は生き辞引として非常に尊敬されたのであります。ところが清少納言の枕草子を繙くと老人はあつかましきもの、すうすうしきもの、頼もしげない下品なもの……と辛らつに悪口をかいています。まことに〃いとあわれ〃であります。実際にはつらつとした女性であったとはいえ、とにかく平安朝の女流貴族はこんな批評をしていたんです。時代が下って少々俗物ではありますが兼好法師になりますと〃命長ければ恥多し〃とか〃長くとも四十に足らぬ程にて死なんこそめやすかるべけれ〃とあり、同情しているようでけなしているようです。いわば老人否定をしているわけですが好意的に同情を寄せているという感じもあります。

また面白い話もあります。西大寺の僧、静忠は腰がまがり眉がまっ白でまことに徳だけた姿でしたが宮中へ参内したとき西園寺の内大臣が〃あなたっとのげっせや〃といってたたえたとき日野資朝が〃年の寄りたるにて候〃と犬の老いたるを引き来て尊く見えて候や〃と風刺したかなり失礼なことをいってるように感じます。

老人を取上げた文献から古い時代の考え方を二、三引例しましたが本題の「年祝い」に移りましょう。賀寿というと長寿の祝賀儀礼のように考えられていますが元はそうではないと思います。年祝いの儀礼では〃算賀〃というのがあり、一定の年齢に達したときに祝う性格のものであります。それを大別しますと青年の祝（元服）厄年の祝、長寿の祝……というような類型にわかれ、賀寿がその年賀の中の一つだと思います。人間一生の折目、段階を考え、社会生活の経験から、その折目を厄年としこれを機に神役をつとめたり、厄年の宮参りを行ったりしています。その折目の年を危険な年齢と考え災厄を除くための厄年の祝い—それが呪術的な儀礼となり、その年に当ったものが特別奉仕をする役の年という風習になったのであります。現在は四十二歳を本厄、四十一、三をそれぞれ前厄、後厄といって三年間は忌み慎む風習がありますが歴史的伝統性がありません。女子は三十三が厄年といわれていますがそれも歴史的なものではありません。

人間の一生にはまず誕生祝がありそれから青年の祝……それと賀寿長寿の祝—これが一系列に入っております。人間が一定年齢に達したとき社会的承認をえ、一定の社会的役割を付与されると必要な儀礼と考えられます。これがすべて年祝—年賀であります。現在ではそれが長寿の祝を意味するくらいになってきているのではないかと考えます。シナの礼記には「年幼いに二十年を弱冠、三十を壯、四十を強、五十を艾、六十を耆、七十をもって老といって人生を一年ごとに区別している。つまり段階を区切り儀礼を行うわけです。

元服の儀礼は成式であり子供の地位を定める一段階であり男は十一歳から十五歳の間に元服するのが慣例となっています。〃中古以来の未曽有〃といわれた十七歳での元服もありましたが大体は十五歳までが普通です。天皇の元服は十二歳例が最も多いとの記録もあります。女子は十二から十四くらいの間に髪上げを行い、結髪し、装束をつけ裾をつける。これが成年の女のシンボルであります。成年式後の男子は妻となるべき女子と同棲しますが、儀礼であります。

しかし成年と同時に女性に接するというわけです。大体昔は早熟で源実朝など十二歳で妻選びしています。青年は妻帯と同時に若中組若組といった集団から退いていますがいつから晩年とするかはむつかしい問題です。平安時代では大体四十が晩年期のはじめです。つまり初老で、この時分から生命の前途に不安と危険を感じてくるのであった。しかし八十七歳で一男子を生んだ男の記録がありますがこの頃はすでに中国からホルモン剤などが入っています。そしてこの四十歳ごろからの年賀というものが始まってくるわけです。東大寺要録によると天皇四十歳のときに法要をやっています。四十から千年ごとに有力な貴族たちは賀の祝をしています。平安時代の貴族社会で六十歳以上になると「尚齢会」というのがあり、歌人、詩人も高齢を喜び詩歌管絃の催しをして楽しむ風習がありました。この例は多くの文献にでています。これは年の順に座席を設け、長寿が上に、下齢の人も同席し歌の会を催しております。これは白樂天の催した尚齢会を模倣したものと思われます。七十歳は古稀として別に行われています。しかし六十、五十の賀とは違って事例は少なくなってきます。八十の賀は文献では非常に少なく、九十になると極めて少なくなります。

ところがこの賀の風習も中世以後になると変ってまいります。四十二の厄年、六十一の本家帰りつまり還暦です。次が七十の古稀七十七が喜寿、八十八が米寿……これが近世まで今日まで続いているのです。六十一の還暦を期として公的生活から退する風習がみられます。これは長寿の祝との関連もあり六十をすぎ老人ということになります。また女性も六十一歳で念仏講に入ることもあり これらは近世の隠居制度と関連があると思われます。日本の大宝律令では六十六以上を耆といって加役免除をしています。有力な貴族たちが官を辞するのを致仕といいますが、記録によると大体七十歳以上で致仕しております。これはあくまで任意で、先ほどの隠居とは別であり、七十以上には官を辞するのが例となっていただけです。いわゆる停止ではありません。隠居と致仕の問題は前者が家督相続のそれであり、後者は辞職の問題である点が違います。

古稀の祝賀会に出席することは、その方にあやかりたいと思うからであります。あやかるとは裏似るーすなわちその方の生気を受けて……つまり呪術的であります。高砂子の松、尾上の松の生気が孤と姫に移り、そして熊手を持って松葉をかいているところを婚礼の式の飾りにするのも松の生気が老夫婦に移り、それが若い人に移るというわけであります。これは華燭の典にめでたく用いられることであります。

ふりかえって古稀を祝い、あやかるということは見分るその方のように長命であり、徳の高い人になれると願うわけで、このあやかる気持はどうも古くから日本民俗の一つの気性の現われではないかと思うのであります。

ことで、すいぶん老人をばかにしておりましょう。

江戸時代には文章や文献なんかの少ない時代では長寿の人は長い経験を多量に貯えているため、かなり尊敬され、ことに有識故実というものが重きをなした時代には何事にも先例があり〃あの老人にいって聞けばわかる〃ということから長寿者が社会のリーダーになっていたわけです。これは農村でも同じで水田耕作などでは当然長い経験によるうどい感覚をもっているものがリーダーとなります。これは漁村でも同じことで長寿の人は生き辞引として非常に尊敬されたのであります。ところが清少納言の枕草子を繙くと老人はあつかましきもの、すうすうしきもの、頼もしげない下品なもの……と辛らつに悪口をかいています。まことに〃いとあわれ〃であります。実際にはつらつとした女性であったとはいえ、とにかく平安朝の女流貴族はこんな批評をしていたんです。時代が下って少々俗物ではありますが兼好法師になりますと〃命長ければ恥多し〃とか〃長くとも四十に足らぬ程にて死なんこそめやすかるべけれ〃とあり、同情しているようでけなしているようです。いわば老人否定をしているわけですが好意的に同情を寄せているという感じもあります。

また面白い話もあります。西大寺の僧、静忠は腰がまがり眉がまっ白でまことに徳だけた姿でしたが宮中へ参内したとき西園寺の内大臣が〃あなたっとのげっせや〃といってたたえたとき日野資朝が〃年の寄りたるにて候〃と犬の老いたるを引き来て尊く見えて候や〃と風刺したかなり失礼なことをいってるように感じます。

老人を取上げた文献から古い時代の考え方を二、三引例しましたが本題の「年祝い」に移りましょう。賀寿というと長寿の祝賀儀礼のように考えられていますが元はそうではないと思います。年祝いの儀礼では〃算賀〃というのがあり、一定の年齢に達したときに祝う性格のものであります。それを大別しますと青年の祝（元服）厄年の祝、長寿の祝……というような類型にわかれ、賀寿がその年賀の中の一つだと思います。人間一生の折目、段階を考え、社会生活の経験から、その折目を厄年としこれを機に神役をつとめたり、厄年の宮参りを行ったりしています。その折目の年を危険な年齢と考え災厄を除くための厄年の祝い—それが呪術的な儀礼となり、その年に当ったものが特別奉仕をする役の年という風習になったのであります。現在は四十二歳を本厄、四十一、三をそれぞれ前厄、後厄といって三年間は忌み慎む風習がありますが歴史的伝統性がありません。女子は三十三が厄年といわれていますがそれも歴史的なものではありません。

人間の一生にはまず誕生祝がありそれから青年の祝……それと賀寿長寿の祝—これが一系列に入っております。人間が一定年齢に達したとき社会的承認をえ、一定の社会的役割を付与されると必要な儀礼と考えられます。これがすべて年祝—年賀であります。現在ではそれが長寿の祝を意味するくらいになってきているのではないかと考えます。シナの礼記には「年幼いに二十年を弱冠、三十を壯、四十を強、五十を艾、六十を耆、七十をもって老といって人生を一年ごとに区別している。つまり段階を区切り儀礼を行うわけです。

元服の儀礼は成式であり子供の地位を定める一段階であり男は十一歳から十五歳の間に元服するのが慣例となっています。〃中古以来の未曽有〃といわれた十七歳での元服もありましたが大体は十五歳までが普通です。天皇の元服は十二歳例が最も多いとの記録もあります。女子は十二から十四くらいの間に髪上げを行い、結髪し、装束をつけ裾をつける。これが成年の女のシンボルであります。成年式後の男子は妻となるべき女子と同棲しますが、儀礼であります。

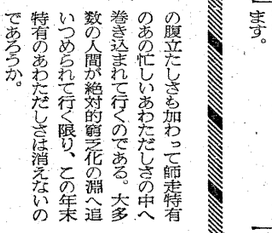
しかし成年と同時に女性に接するというわけです。大体昔は早熟で源実朝など十二歳で妻選びしています。青年は妻帯と同時に若中組若組といった集団から退いていますがいつから晩年とするかはむつかしい問題です。平安時代では大体四十が晩年期のはじめです。つまり初老で、この時分から生命の前途に不安と危険を感じてくるのであった。しかし八十七歳で一男子を生んだ男の記録がありますがこの頃はすでに中国からホルモン剤などが入っています。そしてこの四十歳ごろからの年賀というものが始まってくるわけです。東大寺要録によると天皇四十歳のときに法要をやっています。四十から千年ごとに有力な貴族たちは賀の祝をしています。平安時代の貴族社会で六十歳以上になると「尚齢会」というのがあり、歌人、詩人も高齢を喜び詩歌管絃の催しをして楽しむ風習がありました。この例は多くの文献にでています。これは年の順に座席を設け、長寿が上に、下齢の人も同席し歌の会を催しております。これは白樂天の催した尚齢会を模倣したものと思われます。七十歳は古稀として別に行われています。しかし六十、五十の賀と

黙・見・廉・夫（具体美術協会）

賀寿の風習

魚・澄・惣・五・郎

石浜純太郎先生の古稀を祝って



石浜純太郎先生はこのたび古稀の祝を迎えられたが、このように長寿を祝うようになった「賀寿の風習」についてお話をしたいと思います。

元来、古稀の祝賀というのはシナの詩人、杜甫の「人生七十古来稀」というところから来ているようです。古稀だから祝うというのは稀少性をいったわけです。物の本質の価値高を考えず、ただ少ないからおめでたい……。骨董を重宝がるような人を馬鹿にしたような話ですよ。

どうも老人というものは古い文献をみると評判がよくないんです。昔、将軍なんかが行列をする折に先鋒隊というものをだしていましたが弓組とか鉄砲組とか申しまして戦国時代の先発隊で非常に活躍しなければならないものでしたが江戸時代にはほんの飾りになってしまった。旗本なんかの親で年をとり役に立たないものは飾りにしてでも役に立たせてやろうという一方である。かなえられる夢のいかにさやかであることか！見果てぬ夢のいかに多いことか！憲法で保障されたはずの健康にして文化的な生活を営むことを許さない貧困が、いかに多く世の中に充満していることか！多数の貧困と対置された多数の商品、この矛盾がある限り年末の忙しさ、あわただしさは跡を絶つまい。

年末のあわただしい風潮フィナーレはクリスマスである。あちこちで忘年会が開かれキャバレーやバーが満艦飾の粧いをこらす。用事があるのかないのかむむやみと人が通り、自動車が流れ、街中ジングルベルのメロディーが充満する。ここまで来るとはとう冷静な男でもついけない。大キャバレーは大量生産方式？で、小バーは独特の微笑で男心を誘う。過ぎにし一年間の労働力の報酬をはるかに上回るこの微笑この恋にはとてもついて行けない。あわただしさは遂に腹立ちに変る。年末の忙しさ、あわただしさにも入れない貧困が豊富な商品と併存していることは、これも腹立たしい。（筆者は商学部助教授）

不景気やというのに…

※誘惑する百貨店の〃ロカビリー化粧〃※

師走雑感　柏・尾・昌・哉

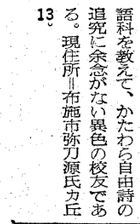
師走は忙しくあわただしい。そして、その出発点は人の心である。何事も思うにまかせず、やることなすことイスカのくちばしのようにままならなかった過ぎしこの一年の日月に、早くおさらばをして、新しい希望の夢を新年に托そうと思うのは、多くの人の願いである。年末の所事万端の後かたづけも新年の行事も、しょせんはこのような人の願いの現われに過ぎない。新たな決意と控負を抱いて迎えようとする清純無垢な新年のために、年内にケリをつけてしまいたいことが山ほどある、と人の心はいらだたしくなる。そのいらだたしさが一人一人の心の中で納まっている内はまだよいが挙措言動に現われ始めるともういけない。いらだたしい挙措言動は連鎖反応を起して次から次へと人の心を爆発させ、師走の、あのえたいの知れない忙しさ、あわただしさを引きおこすのである。

人の心に納まっているいらだたしさは、何らかのきっかけがなければ挙措言動にまで発展しない。少なくとも次から次へと連鎖反応を起してすぐとは、まず考えられない。とすると、このきっかけとは一体何であろう。

私は、それを商品の微笑だと思っている。年末に人の心に内在するいらだたしさは、何らかの意味で商品需要に連なっているからである。資本がこの機会を見逃がすはずはない。大きい資本も小さい資本もその商品が一斉に怪しげな微笑をただよわすのである。それも、薄化粧にはじらいを含んだ可憐な処女の微笑ではなく、どぎつい厚化粧あるいはロカビリー的異常化粧の下に商魂を奥深く秘めた色気あふれる微笑なのである。

男は度胸、女は色気、というが商品の色気は色気の本尊である女の人に、特に強い効能をもっている。ありとあらゆる手練手管をあやつる商品の色気は、全人口の半分を占める女人族をまず誘惑し去るのである。こうして、多くの女心は日夜商品を恋いこがれるようになる。今買わなければいけないと一途に思い込んだ女心は切なくもあまい。早く買わなければ早く買わなければ…という女心の腹立たしさも加わって師走特有のあの忙しいあわただしさの中へ巻き込まれて行くのである。大多数の人間が絶対的窮乏化の淵へ追いつめられて行く限り、この年末特有のあわただしさは消えないのであろうか。

とこ数年来、日本では、年末の商品微笑攻勢の火ブタは、百貨店によって切られている。百貨店の入口に温顔をたたえた大きなサンタクロースが袋を背負って立ちふさがるのは、桔梗のメロディーが街を流れる十月のことである。この百貨店は、いわずと知れた大資本である。巨大な資本力に物をいわせて、膨大な商品をきわめて有利に仕入れ、大いなる微笑をもって多数の人に売りつけ、莫大な利潤を手に入れる。これが百貨店なのである。大資本が小資本を駆逐しつつ自らを巨大にして行く資本主義社会の法則は、流通部面をいらだたしさは、出ない賞与をめぐって男よりはるかに早く挙措言動に現われる。男心の奥深く納まっていたはずのいらだたしさもこに至って遂に連鎖反応を起すという次第である。ましてや、女心で思いつめた買いたい商品の大部分が日常の生活必需品であってみれば、男は度胸もどこへやら、いらだたしさは可憐さを交えて倍加し、出るまで出ない年末賞与へ



柏原市歌を作詩

自由詩に尊敬する　明珍　昇氏

『いまあけそめる金剛の峰ゆく雲に光る風
ああ柏原の市民みな
この景勝の地に生きて
人の親和を誇ろうよ
歴史ひらいた大和路の
変らぬ流れたゆみなく
ああ柏原の市民みな
古きをたずね新しき
文化の理想築こうよ
生気みなぎる河内野に
希望の胸をふくらませ
ああ柏原の市民みな
土に工場に街なみに
のびる産業興そうよ』

これは十月一日から発足した大阪府柏原市の市歌である。

柏原市では朝日、毎日、産経、読売の各新聞社と組んで市歌作詩の募集を行っていたが四十七の応募作品のなかから明珍（みょうちん）昇氏さんのものが当選した。

明珍氏は昭25専一国、昭29学一新を卒業した本学校友で在学中から自由詩の研究にはげんできた。二十七年に詩集〃日時計〃を出版したり飯田正一教授の指導も受けた。卒業後、教員生活に入ったがいま西成区・市立成南中学校で国語科を教えて、かたわら自由詩の追究に余念がない異色の校友である。現住所＝布施市弥刀源氏ヶ丘13。

校友会本部記録

十一月

一日　組織部打合せ会
五日　一部幹友会との懇談会・午後一時、天六学舎
六日　大阪市役所支部総会・午後六時、喜楽別館
六日　東淀川支部世話人会・午後六時、天六学舎
六日　枚方支部幹任役員会・午後六時、支部長宅
七日　東成支部役員会・午後六時、神戸支部総会・午後一時、農業会館
九日　吹田支部発会式・午前十時、千里山学舎
十一日　部長会・正午、清風クラブ
十一日　東京支部総会・午後五時半、ニュー海上
十四日　職域・同期会代表者会議・午後五時、清交社
十五日　昭六会・午後五時、北京
十五日　一高同窓会総会・午後四時、産経ビル
十七日　関中十期会・午後六時、清竹
十七日　東淀川支部役員会・午後六時、天六学舎
十九日　大阪支部役員会・午後五時、天六学舎
二十一日　祥久会・午後六時、大市
二十二日　大阪市内中学校教員関大会発会式・午後三時、天六学舎
二十三日　伊丹支部幹事会・午前十一時、伊丹シスターグリル
二十五日　広報部会・午後六時、天六学舎
二十七日　十二会
二十八日　教育後援会との懇談会・午後六時、いろは
二十九日　豊中支部総会・午後五時、魚浅
二十九日　芦屋支部総会・午後五時、竹園
二十九日　日産自動車関大会・午後六時、大市

おことわり　鋳方貞亮教授の連載随想は筆者の都合で休載しました。

知通御転移
株式会社
クニタ洋服店
国田栄一
大阪市北区堂島北町六ノ六
毎日ホール前
電話㊱五五六九番

中尾会計事務所
税理士　中尾正義
中尾義隆
（昭和一二十九年学部卒）
事務所　大阪市天王寺区上之宮町33　電天王寺㊼九一七三
自宅　奈良縣宇陀郡大宇陀町麻生田電話（大宇陀）三〇六番

弁理士
大島武夫
大阪市北区宗是町一〇
自宅＝茨木市二の丸町一五〇三　電話㊹一一〇〇番

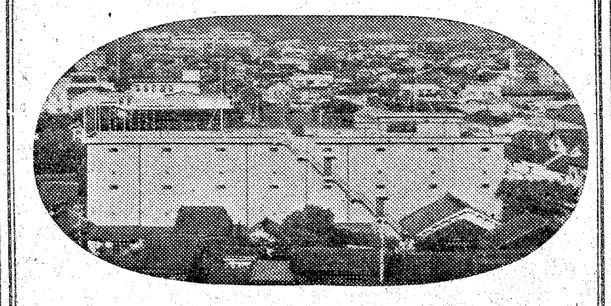
株式会社
浪速プラスチック工業株式会社
業目　合成樹脂製品の成型加工一式
営科　輸出玩具並びに雑貨
取締役社長　白柳利一
本社　大阪市住吉区南住吉町一丁目二二
電話　大阪㊼四八四〇番

ビニールレザー生地
株式会社
坂本レザー商会
代表取締役　坂本輝太
坂本忠司（昭31商卒）
本社　大阪市南区鍛冶屋町三　TEL㊷九五一五（代表）
神戸支店　神戸市長田区若松町三丁目一　TEL須磨㊷四一〇〇

電気工事の設計、施工
近畿電氣工事株式會社
取締役社長　佐藤太
本店　大阪市北区扇町12番地
電話大阪（37）7171—8
支店・支社　大阪北・大阪南・京都・神戸・姫路・奈良・和歌山・滋賀・名古屋・広島・東京

創業　大正十年
暖冷房　換気
給配水　衛生　設備・設計・施行
株式会社
大阪城口研究所
大阪市北区高垣町一
TEL（37）七五七五（代表）
出張所　京都・神戸

株式会社　西尾倉庫
新倉庫完成



本社　大阪市北区源蔵町27
TEL(34)7736—9・2612
取締役社長　西尾専太郎

不動産
売買と仲介・管理
評価と鑑定
小寺エイゼントとして
二十年の業績と信用を誇る
株式会社
小寺不動
大阪市北区堂山町一〇六（阪急東）
電話㊱八〇五一（代表）八〇五二・八〇五三・八〇五四番
取締役社長　小寺小市郎
推薦者
大阪商工会議所会頭　杉道助
大阪証券取引所理事長　岡野衛
和歌山市長　高垣善一
石切剣箭神宮宮司　田中積一
友人総代元防衛次官　中村久雄